金沢工業大学　御中

平成29年度　授業調査　報告書

2018.10.2

有限会社　アイ・ポイント

INDEX

＜1＞本調査の全体像	2
＜2＞基本的な分析	7
＜3＞学年別の分析	16
＜4＞学部・学科別の分析	22
＜5＞科目区分別の分析	32
＜6＞同一学生群の分析	38
＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
＜8＞全体のまとめ	49

＜1＞本調査の全体像

＜1-1＞全体概略

1）調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学（以下、KIT）の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が13年目となるため、13年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。（調査開始は平成14年度）

2）調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容
有効回答数	1年次生 27,460件 2年次生 31,994件 3年次生 25,890件 4年次生 1,238件 合計有効回答数 86,582件
年別回答数推移	
対象科目	513科目
実施方法	• 実施期間：各学期の各授業科目の最終日に実施した。 • 実施方法：記名式。科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 • 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。
調査主体	学校法人　金沢工業大学
集計	有限会社　アイ・ポイント

年度	春学期（夏期特別含む）	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	

年度	前期	後期	全回答数	調査票
平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票
平成22年度	48,541	48,175	96,716	
平成23年度	53,166	49,870	103,036	
平成24年度	47,317	46,666	93,983	
平成25年度	47,317	45,003	92,320	
平成26年度	45,014	50,767	95,781	
平成27年度	48,882	43,421	92,303	
平成28年度	47,946	41,113	89,059	
平成29年度	**46,988**	**39,594**	**86,582**	

3）以前との設問の比較

	旧アンケート内容（平成15～16年度、一部は平成14年度から）
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー（OH）は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー（OH）を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

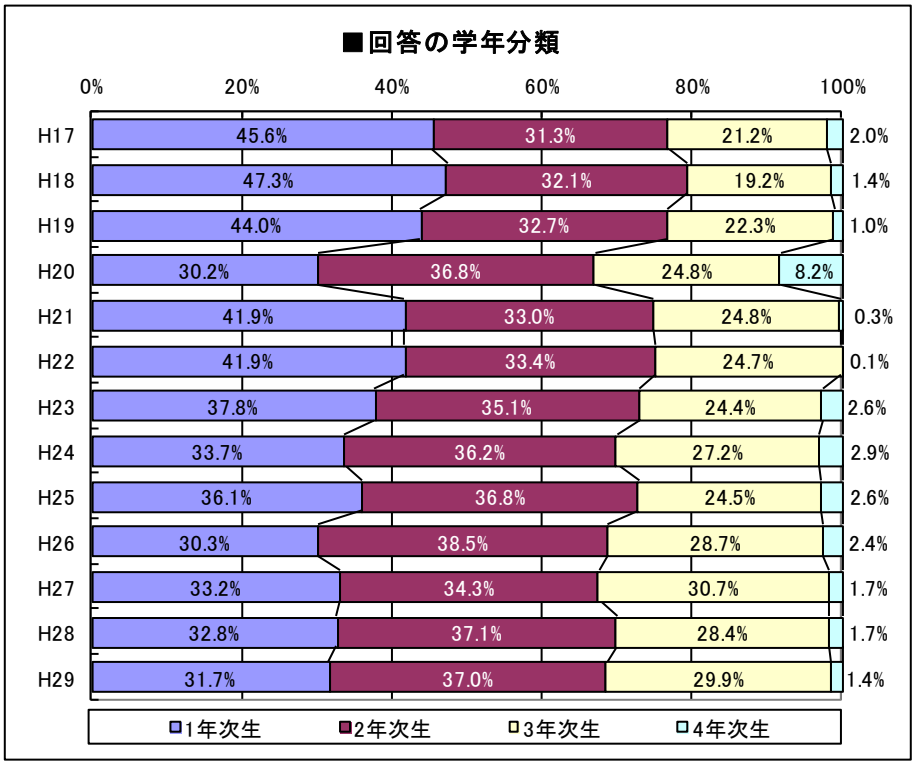
	新アンケート内容（平成17年度以降）	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 **※平成27年度の後期より選択肢を変更している。**	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談（オフィスアワー、チューターなど）は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

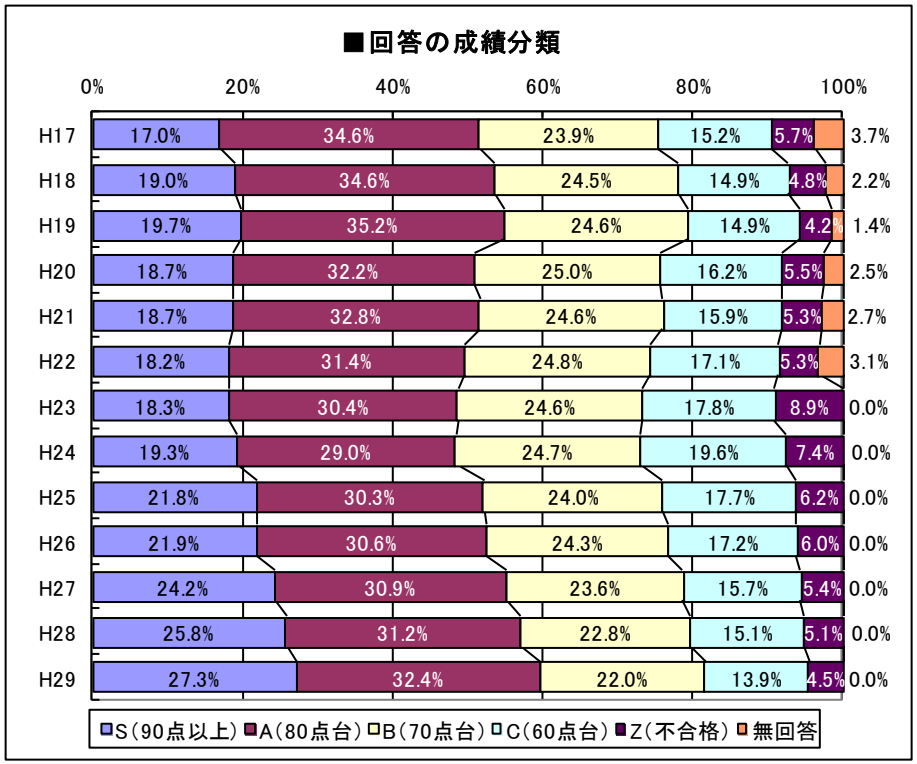
下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので全ての期間に渡って比較ができるが、それら以外の設問は変更後の平成17以降で比較を行った。
- 平成27年度の後期より、設問D（1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。）の選択肢を変更している。これまでは「1．2時間以上、2．1～2時間、3．1時間程度、4．30分程度、5．学習は特にしなかった」の5択であったが、後期からは「1．3時間以上、2．2～3時間、3．1～2時間、4．1時間程度、5．30分程度、6．学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。

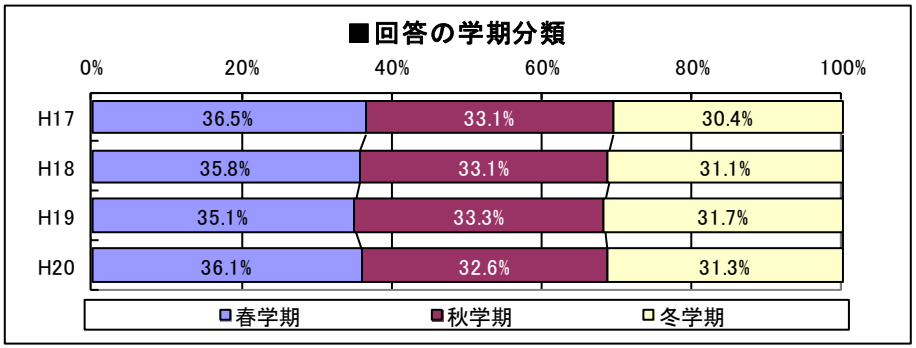
＜1-2＞回答者の基本属性

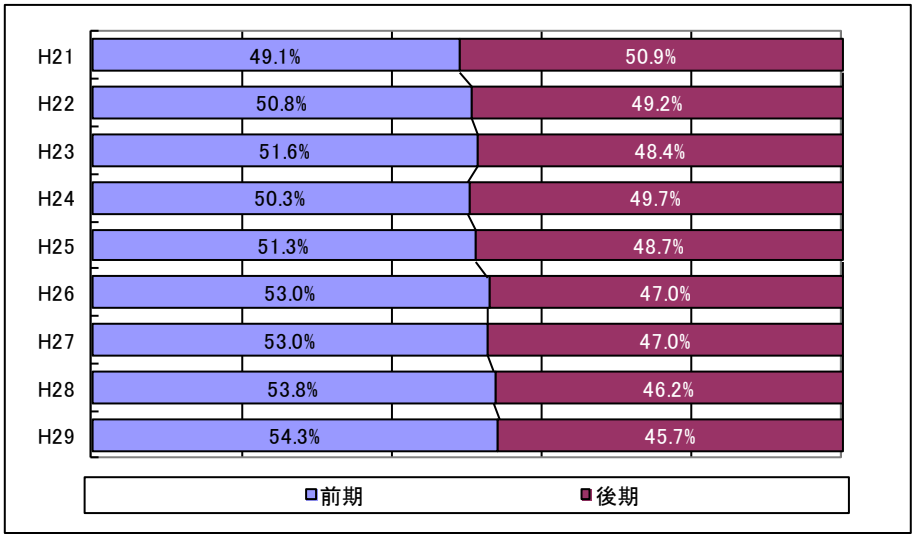
- 回答を学年別に分類すると、「1年次生」が31.7%、「2年次生」が37.0%、「3年次生」が29.9%、「4年次生」は1.4%であり、前回との大きな差は見られなかった。
- 成績で分類すると、「S」はH22から増加が続いて過去最高の27.3%となり、「A」が32.4%、「B」が22.0%、「C」が13.9%、「Z」が4.5%であった。

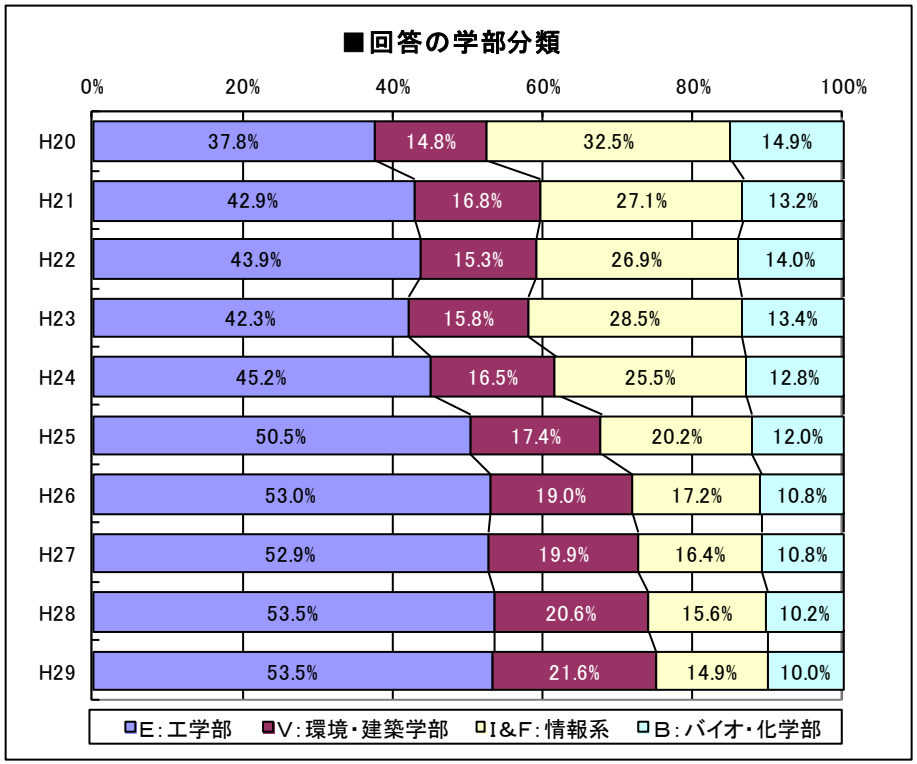




- 学期別の分類については前後期の2期制となったH21年以降で比較すると、「前期」の増加傾向が続いて54.3%となり、「後期」が45.7%であった。
- 学部別比較において、以前は「I:情報学部」があったため「I&F:情報系」としているが、現在の在学生は「F:情報フロンティア学部」のみになっている。
- 学部別の比較を見ると、「E:工学部」が53.5%、「V:環境・建築学部」が21.6%、「I&F:情報系」が14.9%、「B:バイオ・化学部」が10.0%であった。前回と大きな差はないが、「V:環境・建築学部」の増加傾向と「I&F:情報系」の減少傾向が続いていた。





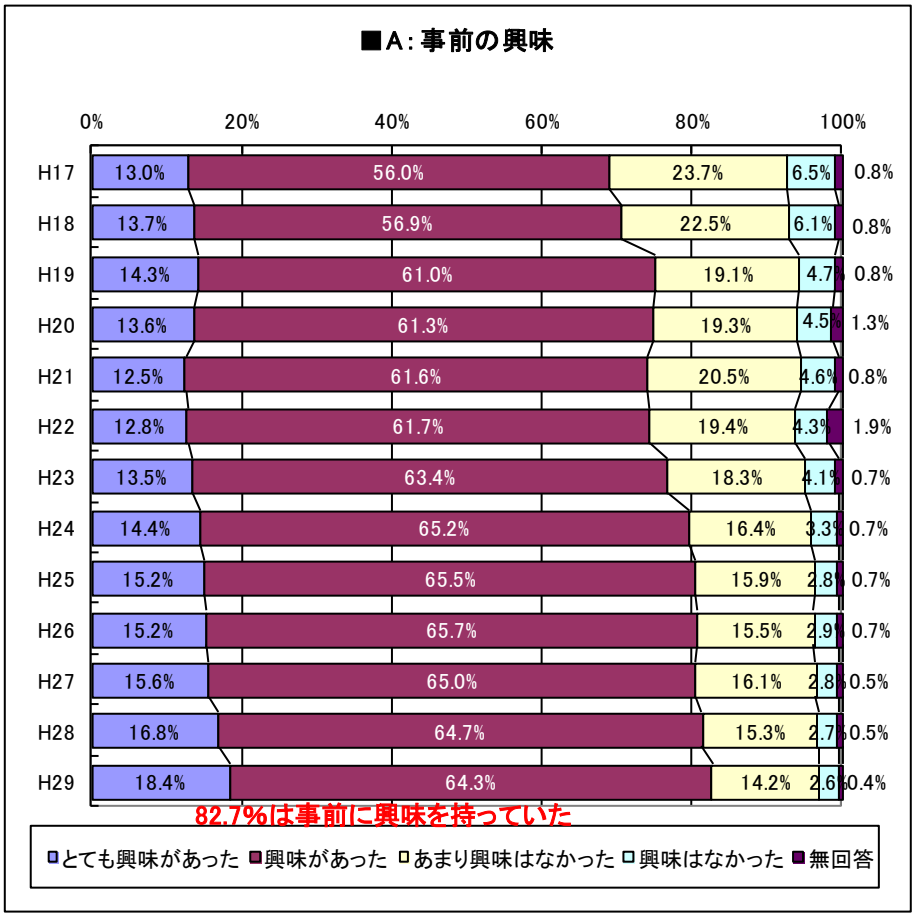


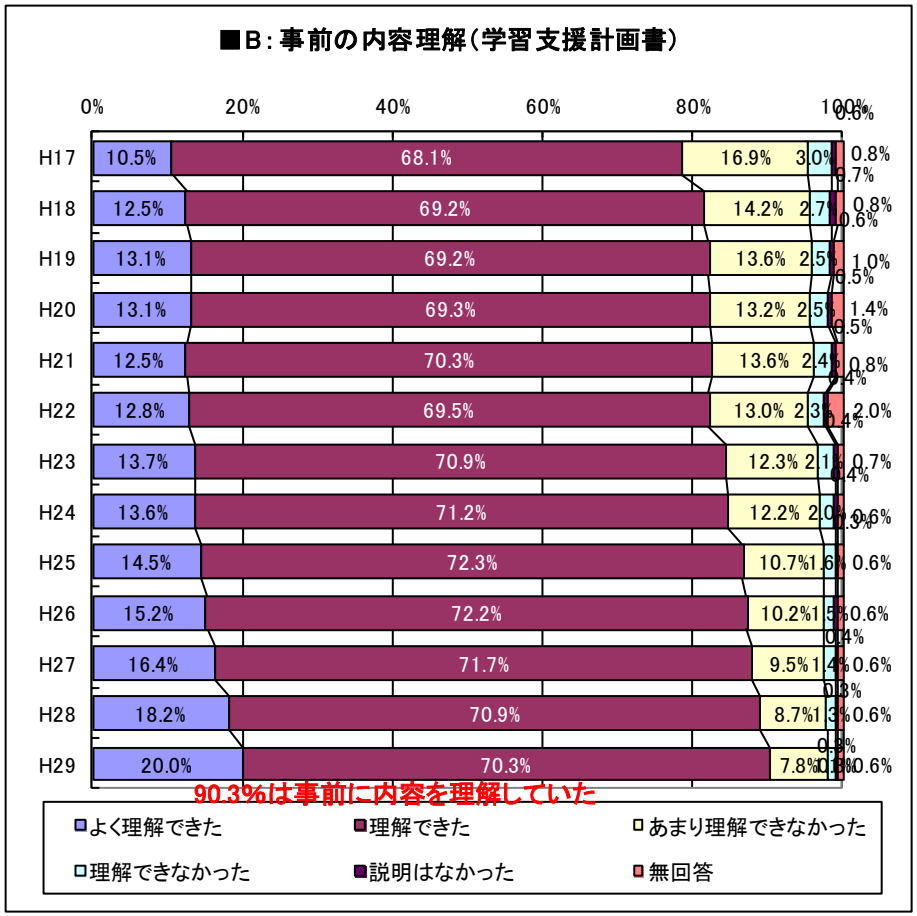
※H24年度以降は「I:情報学部」と「F:情報フロンティア学部」を一緒にして「情報系」として扱っている。

＜2＞基本的な分析

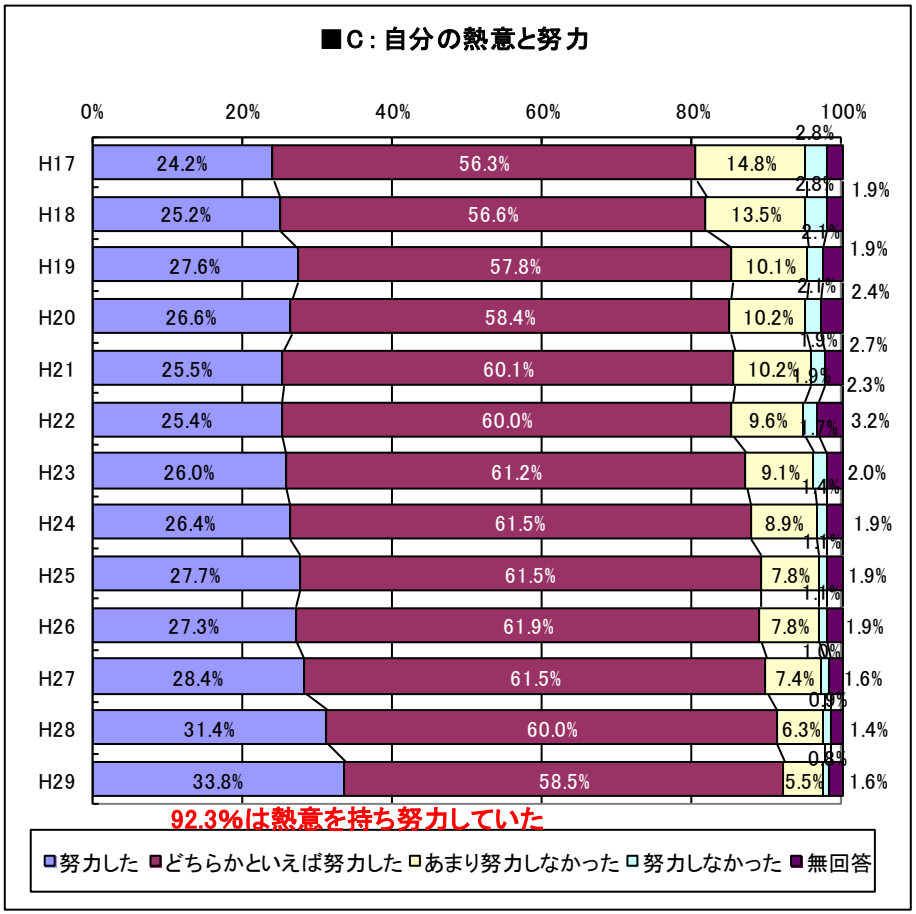
＜2-1＞全項目の基本集計と経年変化

- 「A：事前の興味」では、「とても興味があった」が前回を1.6ポイント上回って18.4％となり、過去最高となった。そして、「興味があった」の64.3％を合わせると、事前に授業に興味を持っていたという回答は82.7％となった。
- 以前と比較すると、「とても興味があった」とともに、肯定的な意見の合計も過去最高となっていた。
- 「B：事前の内容理解（学習支援計画書）」では、「よく理解できた」が過去最高の20.0％となり、「理解できた」の70.3％を合わせると90.3％となった。
- 事前の内容理解に関しても肯定的な意見は増加傾向にあり、今回も前回を1.2ポイント上回って、過去最高となった。

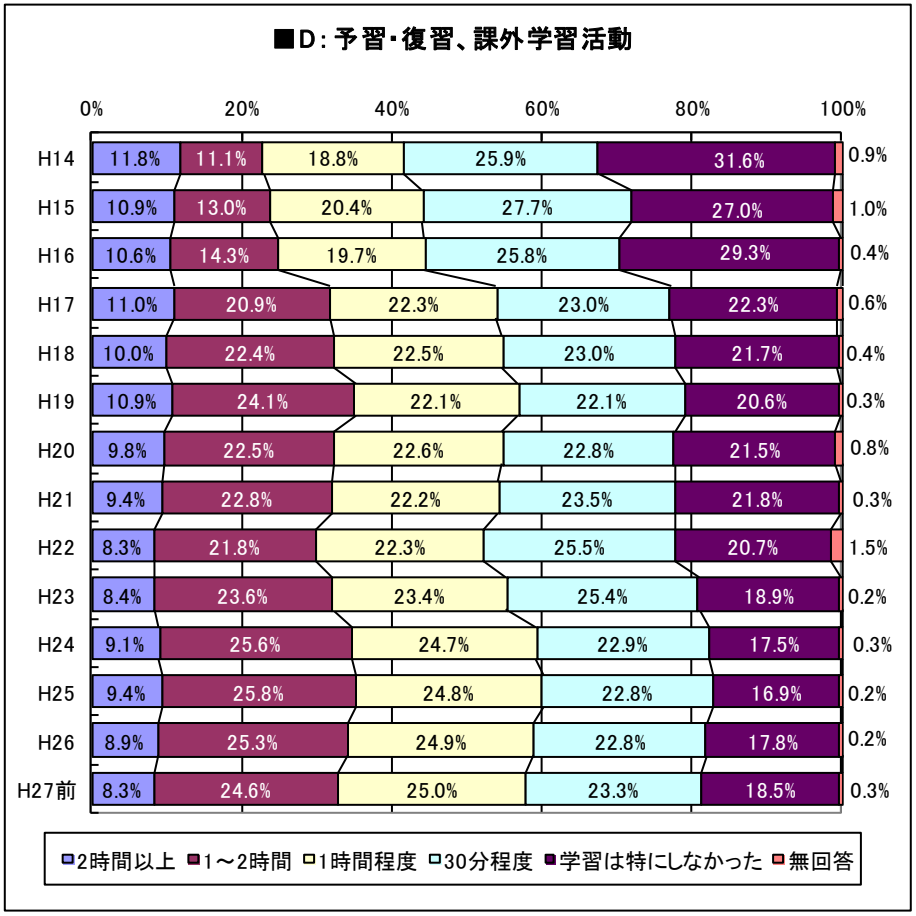


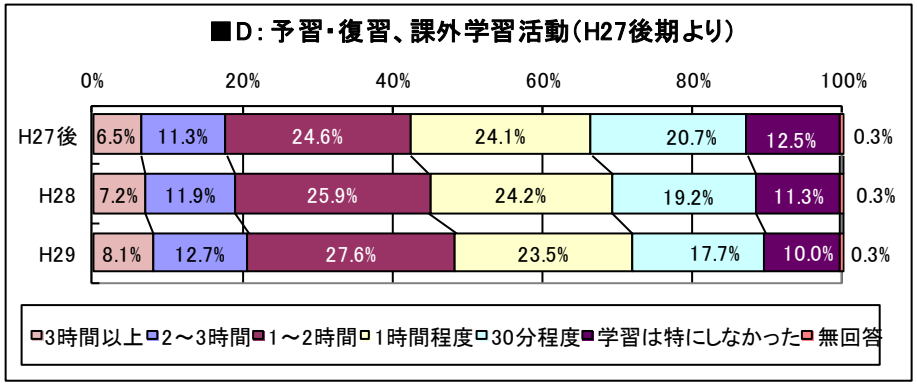


- 「C：自分の熱意と努力」については「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか？」という質問をしているが、「努力した」が33.8％で過去最高となった。そして、「どちらかといえば努力した」の58.8％を加えると肯定的な意見は92.3％であった。
- 以前と比較すると、肯定的な意見が継続的に増加する傾向が続いており、今回は前回を0.9ポイント上回って過去最高となった。



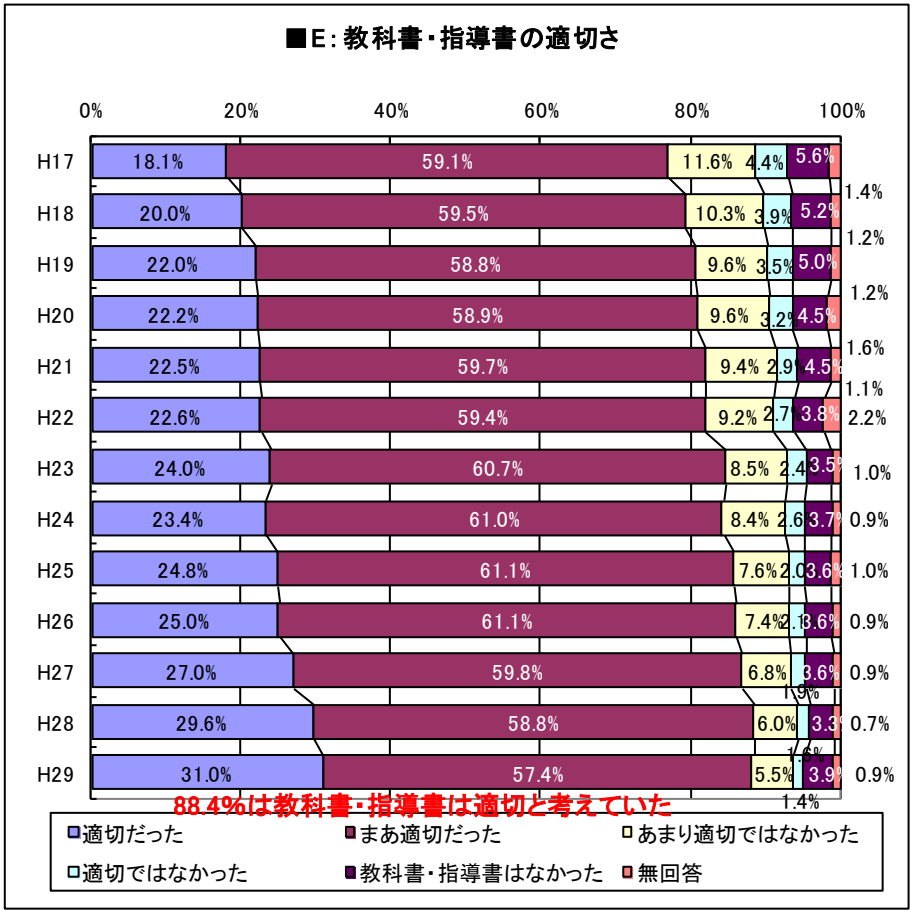
- 「D：予習・復習、課外学習活動」については「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか？」という質問をしているが、H27後期（H27後）より選択肢が変更になっているため、別のグラフで比較をしている。
- 今回の結果を見ると、「3時間以上」が8.1%、「2～3時間」が12.7%、「1～2時間」が27.6%であり、ここまでの項目は全て前回を上回っており、学習時間は長くなっていると言える。そして、「学習は特にしなかった」が10.0%、「30分程度」が17.7%、「1時間程度」は23.5%であり、この3項目はいずれも前回を下回っていた。
- 選択肢が変更となる前と比較しても、「学習は特にしなかった」「30分程度」「1時間程度」は減少しており、長期的に見ても学習時間が長くなってきていると言える。

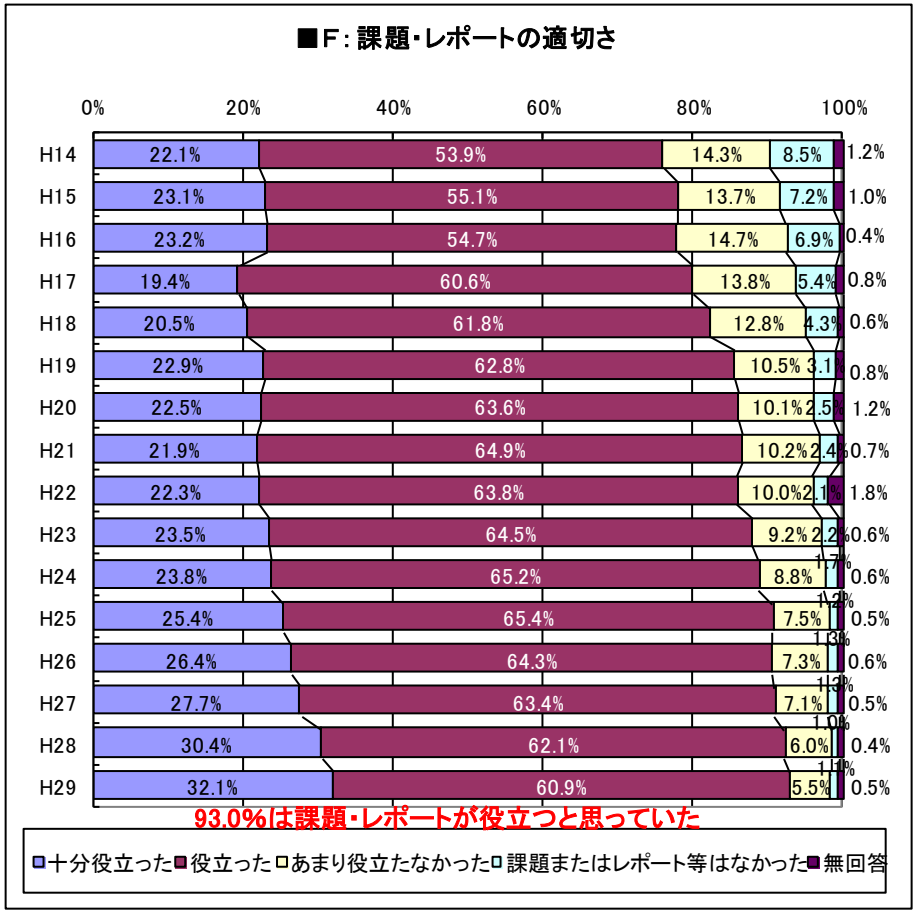




※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。
※H27後期は選択肢は変わったが、設問文は変わっていない。

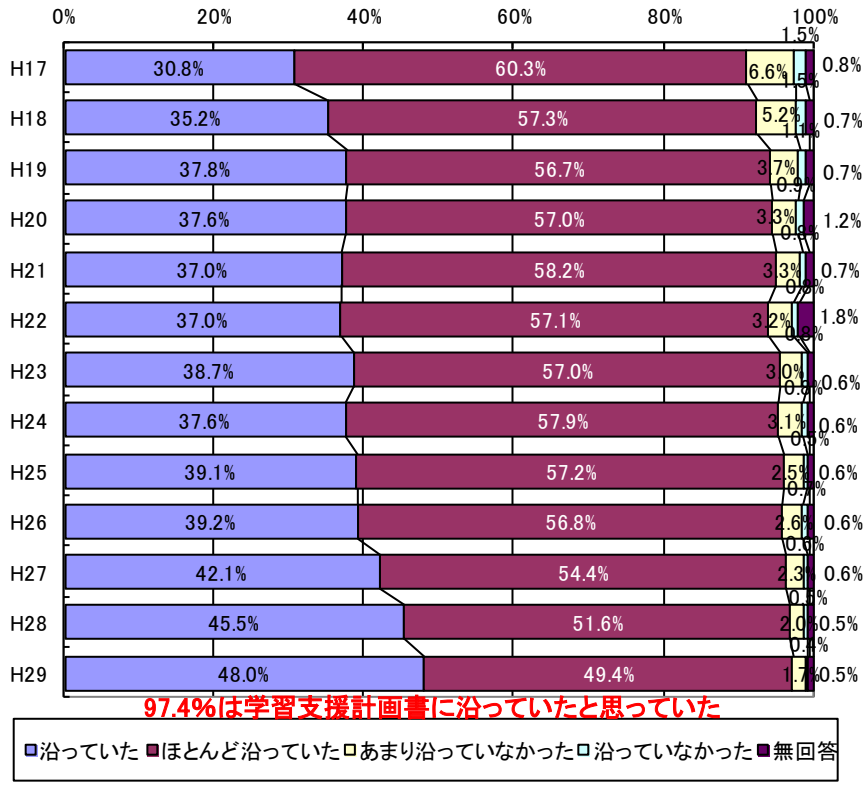
- 「E：教科書・指導書の適切さ」については「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか？」という質問をしているが、「適切だった」が31.0%、「まあ適切だった」が57.4%であり、合計すると88.4%が肯定的な意見であった。
- 以前と比較すると、「適切だった」は前回を1.4ポイント上回って過去最高となったが、肯定的な意見の合計は過去最高の前回と同じであった。
- 「F：課題・レポートの適切さ」については「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか？」という質問をしているが、「十分役立った」が32.1%で過去最高となった。そして、「役立った」が60.9%で、合計すると93.0%が肯定的な意見であった。
- 「十分役立った」は前回を1.7ポイント、肯定的な意見の合計は前回を0.5ポイント上回っていずれも過去最高となり、非常に評価が高い状態が続いていた。



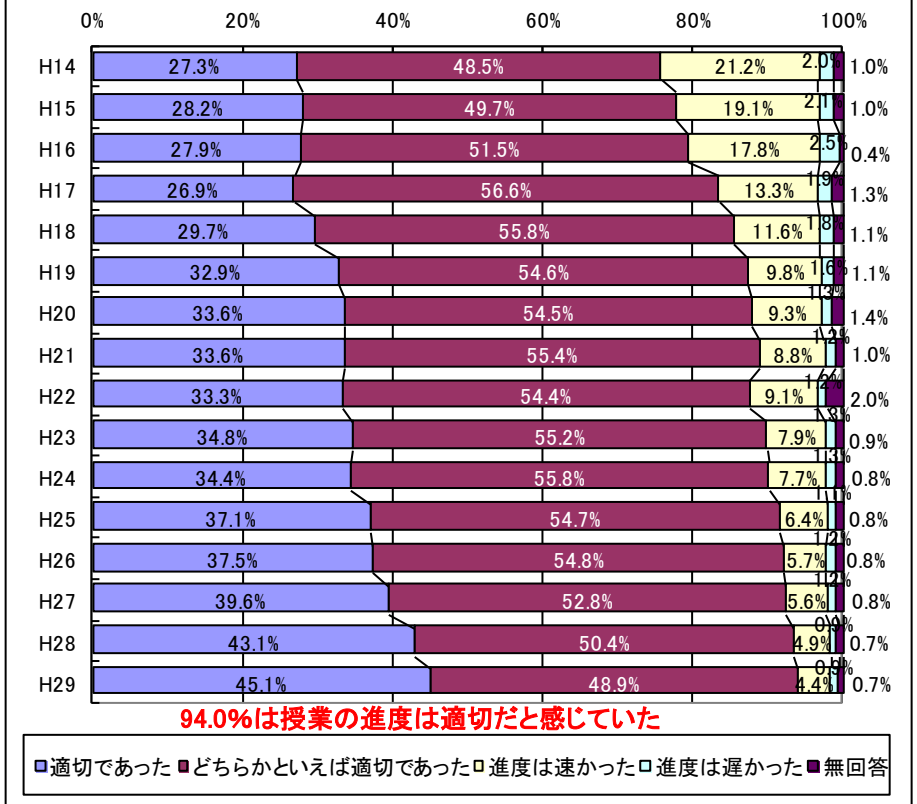


- 「G：学習支援計画書との一致」については「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか？」という質問をしているが、「沿っていた」が48.0%、「ほとんど沿っていた」が49.4%で、合わせると97.4%となり、ほとんどが肯定的な意見であった。
- 以前との比較を見ると、「沿っていた」はH27あたりから急速に増加し、今回も前回を2.5ポイント上回って過去最高となった。そして、肯定的な意見の合計も前回を0.3ポイント上回って過去最高となった。
- 「H：授業の進度の適切さ」については「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか？」という質問をしているが、「適切であった」が45.1%、「どちらかといえば適切であった」が48.9%で合わせると94.0%が肯定的な意見であった。
- 「適切であった」の割合はH25あたりから急速な増加が続いており、今回も過去最高となった。そして、肯定的な意見の合計も前回を0.5ポイント上回って過去最高となった。

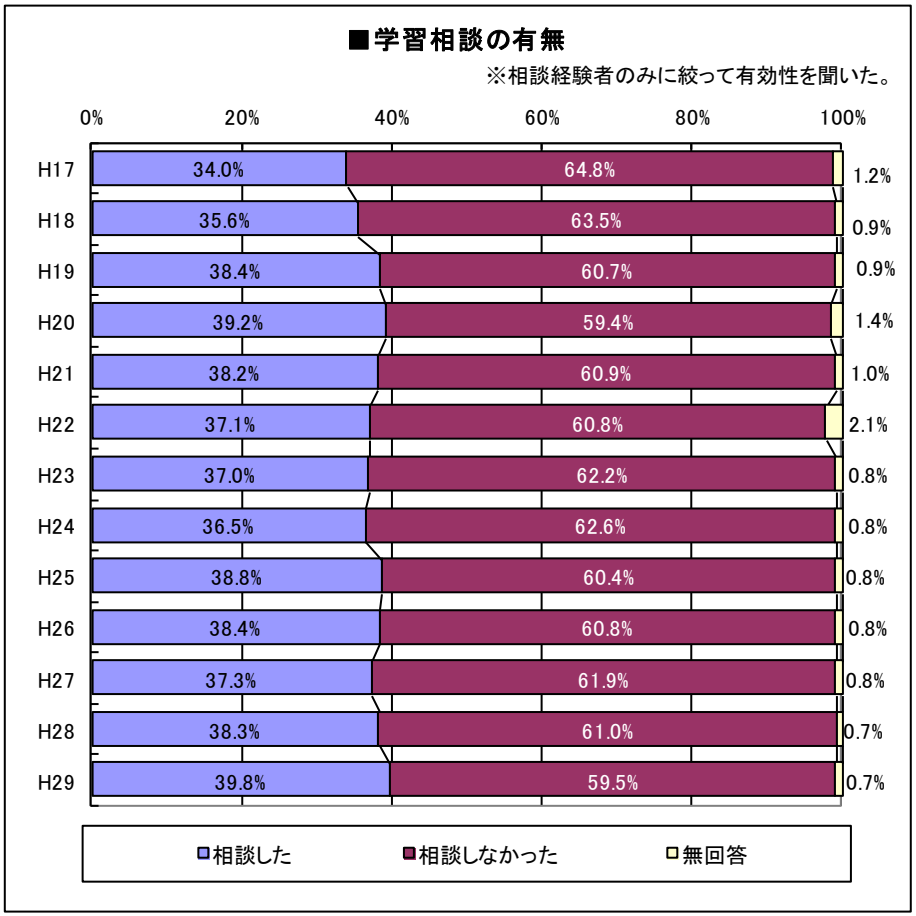
■G：学習支援計画書との一致

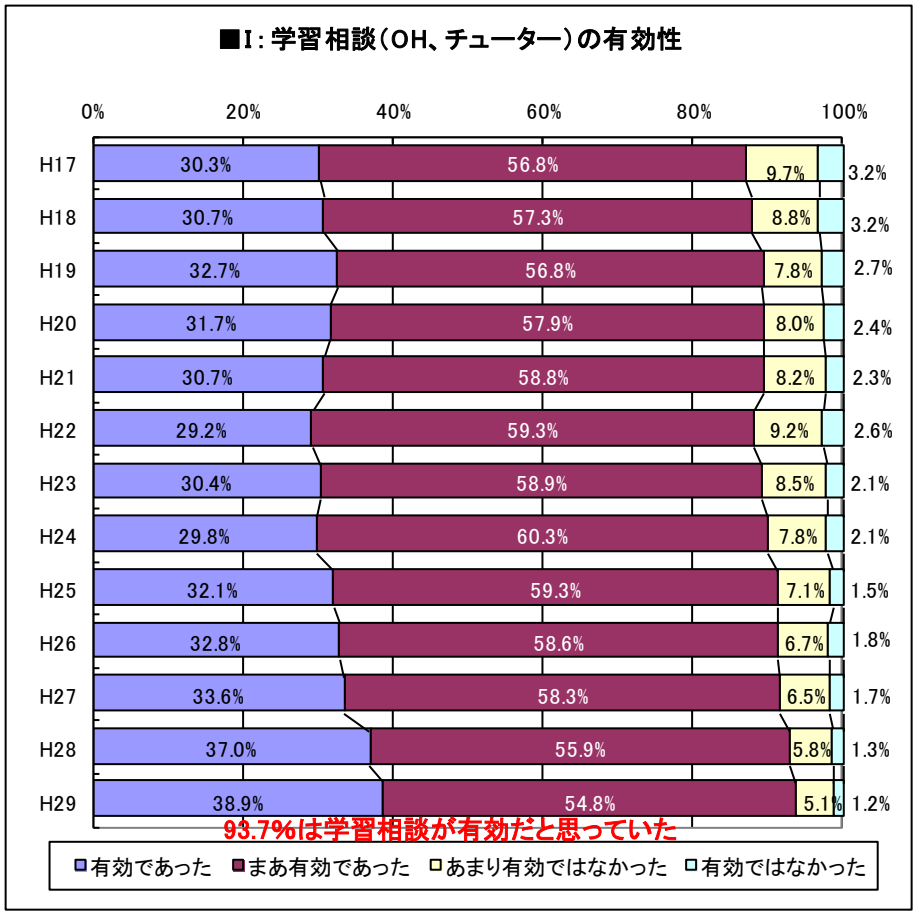


■H：授業の進度の適切さ

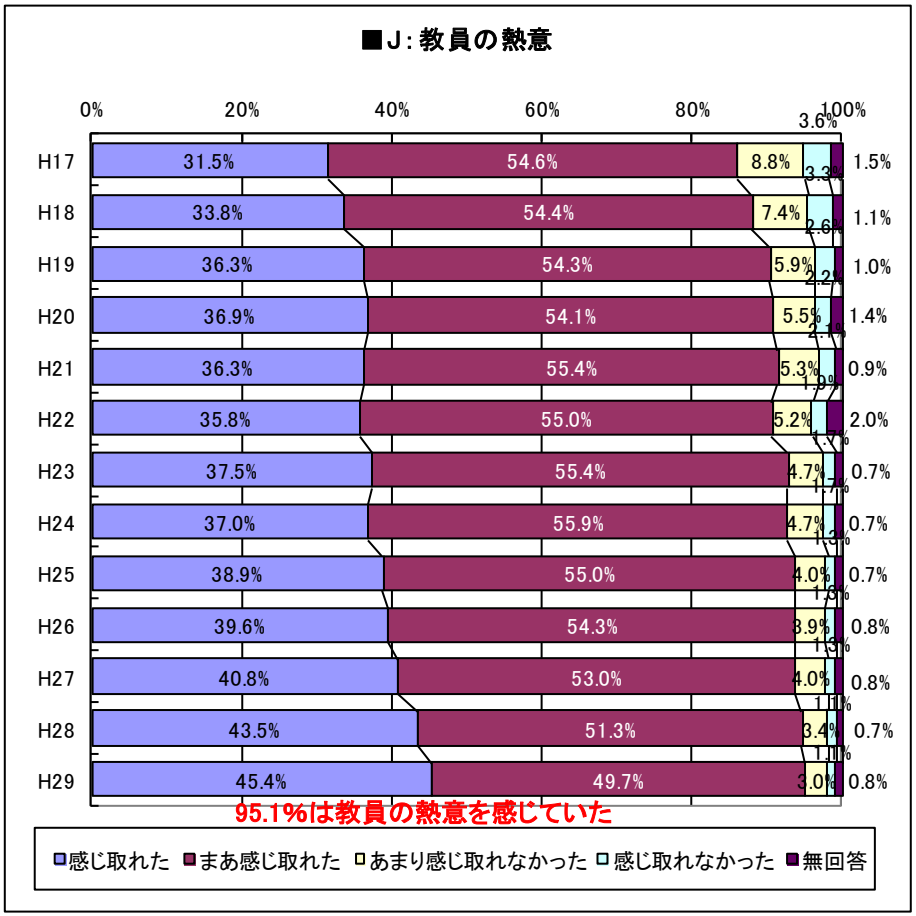


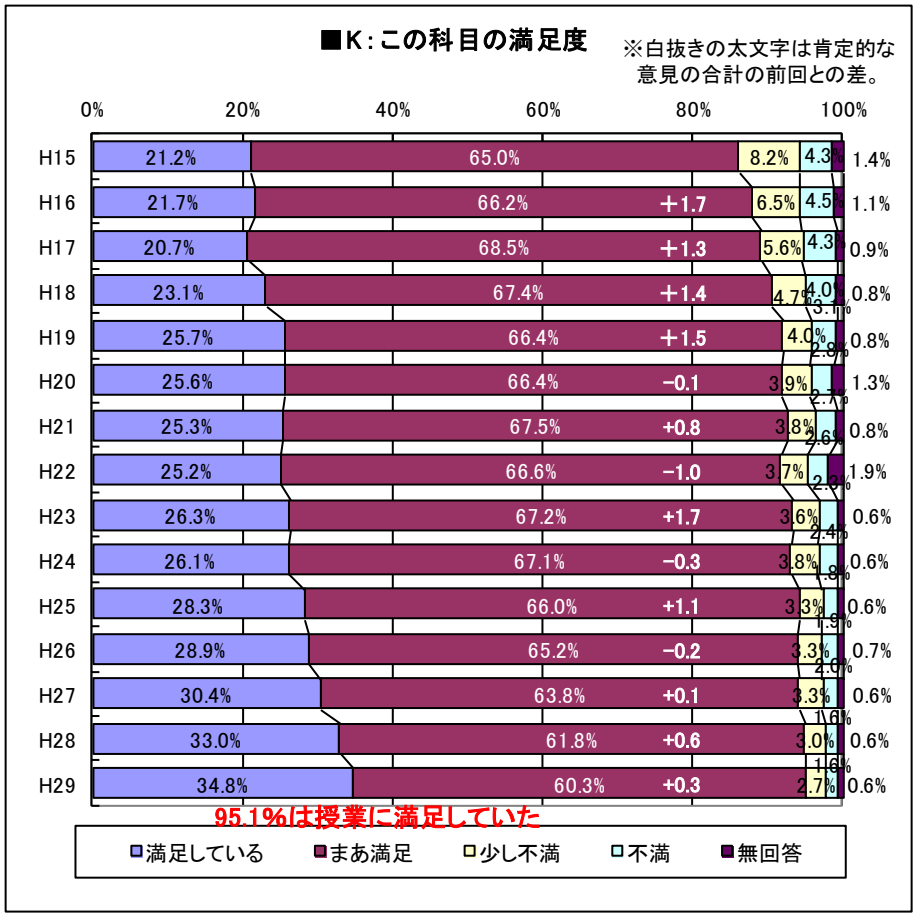
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」については、「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか？」という質問をして、回答は「有効であった」～「有効ではなかった」という4段階の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- まず、4段階の評価を「相談した」と捉えて「学習相談の有無」だけを見ると、「相談した」が39.8%、「相談しなかった」が59.5%であり、「相談した」は前回を1.5ポイント上回ったものの、ほぼ横這い状態が続いていた。
- 次に4段階の評価を見ると、「有効であった」が38.9%、「まあ有効であった」の54.8%と合わせると、93.7%が肯定的な意見であり、学習相談の評価は非常に高かった。
- 「有効であった」を前回と比べると前回を1.9ポイント上回って過去最高となっており、肯定的な意見の合計もH23あたりから継続的に増加する傾向が続き、こちらも過去最高となった。





- 「J:教員の熱意」については「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか？」という質問をしているが、「感じ取れた」が45.4%、「まあ感じ取れた」が49.7%であり、合わせると95.1%が教員の熱意を感じたと答えていた。
- 「感じ取れた」はH25あたりから継続的に増加傾向が続き、今回も前回を1.9ポイント上回って過去最高となった。そして、肯定的な意見の合計も過去最高となった。
- 「K:この科目の満足度」では「満足している」が34.8%、「まあ満足」が60.3%であり、合わせると95.1%が授業に満足と答えており、非常に高い満足度であると言える。
- 授業に満足という回答は前回を0.3ポイントとわずかに上回り、横這い傾向ではあるものの、わずかずつ満足度は上がっている。そして、「満足している」だけを見ると、前回を1.8ポイント上回って、継続的に増加傾向が続いていた。「満足している」は調査開始のH15と比較すると13.6ポイント増加しており、全体の1/3を占めるまでになった。



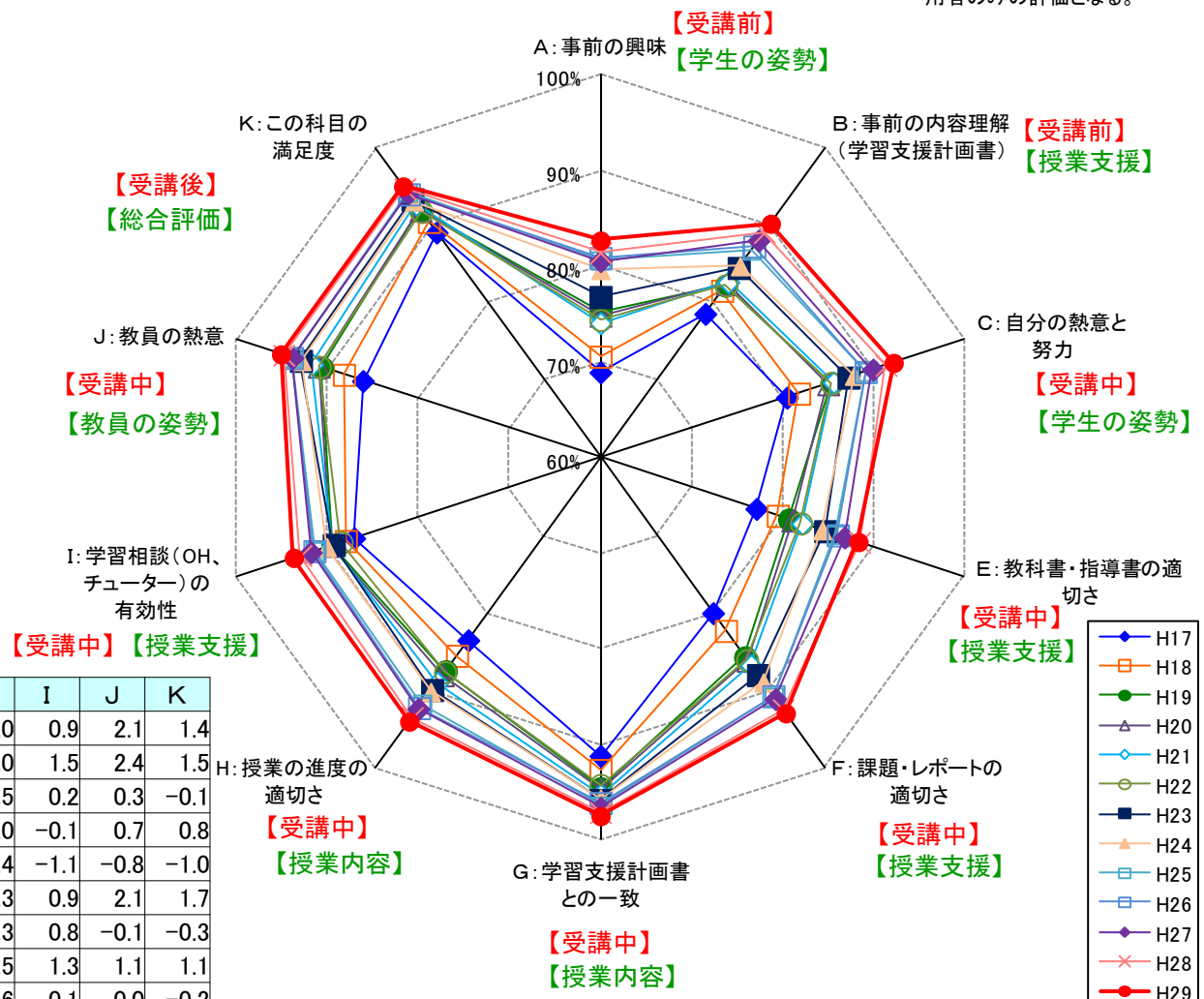


＜2-2＞肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的意見の割合をレーダーチャートにプロットして比較を行った。比較のできない「D:予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I:学習相談（OH、チューター）の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回は「E:教科書・指導書の適切さ」以外は全て前回を上回って過去最高の評価となった。
- 項目別に見ると、「A:事前の興味」の向上が最も大きく、前回を1.3ポイント上回り、「B:事前の内容理解」も1.1ポイントの向上していた。

■比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。



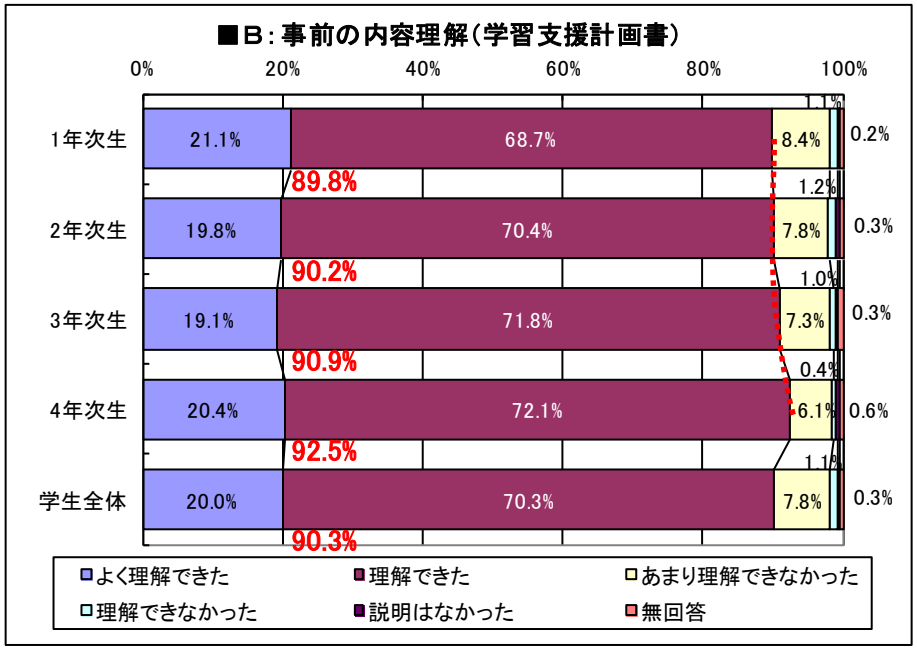
■肯定的な意見の差（単位:ポイント）

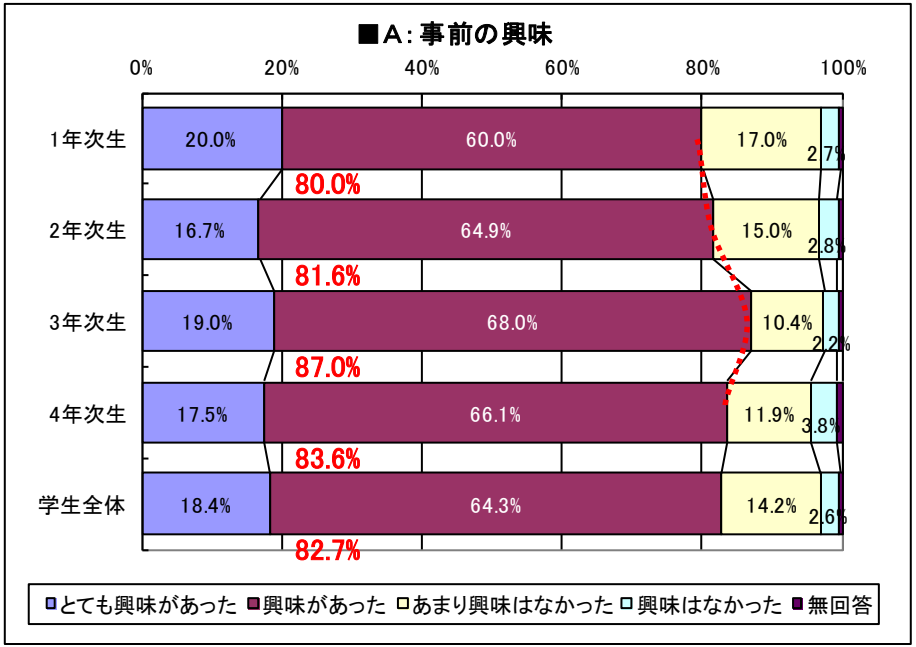
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	−0.4	0.2	−0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	−0.1
H20からH21の上昇	−0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	−0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	−0.4	−0.3	−0.1	−0.7	−1.0	−1.4	−1.1	−0.8	−1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	−0.3	0.9	−0.2	0.3	0.8	−0.1	−0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26の上昇	0.3	0.5	−0.1	0.2	0.0	−0.3	0.6	0.1	0.0	−0.2
H26からH27の上昇	−0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	−0.1	0.1
H27からH28の上昇	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29の上昇	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3

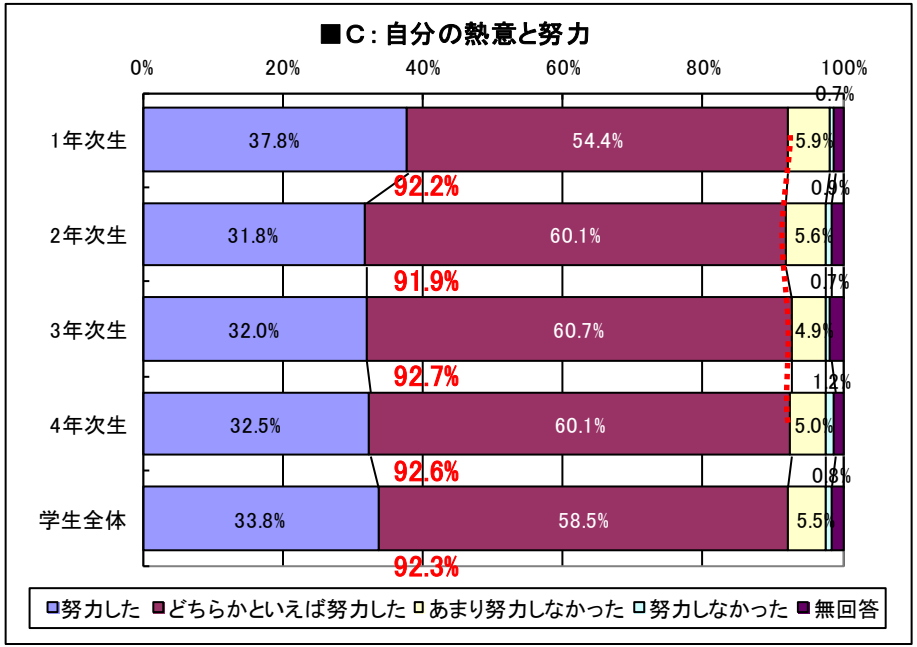
＜3＞学年別の分析

＜3-1＞学年別の比較

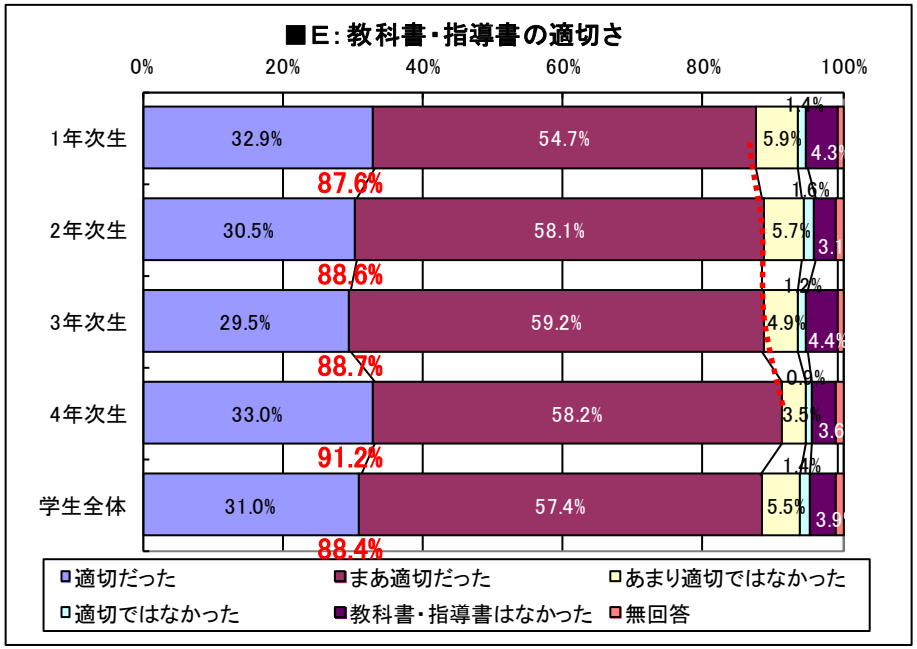
- 「A：事前の興味」で肯定的意見の合計を学年別に比較すると、「3年次生」が87.0％と最も多く、次いで、「4年次生」が83.6％、「2年次生」が81.6％、「1年次生」が80.0％と続いており、「4年次生」を除くと低学年ほど興味が低い傾向が見られた。ただし、「とても興味があった」だけを見ると、差は少ないものの「1年次生」が20.0％で最も多かった。
- 「B：事前の内容理解（学習支援計画書）」で肯定的な意見を比較すると、「4年次生」が92.5％で最も多く、「3年次生」が90.9％、「2年次生」が90.2％、「1年次生」が89.8％と、低学年ほど低下する傾向が見られた。ただし、最大と最小との差は2.7ポイントと、大きな差ではなかった。
- 「C：自分の熱意と努力」の肯定的な意見は「3年次生」が92.7％、「4年次生」が92.6％、「1年次生」が92.2％、「2年次生」が91.9％であり、差は非常に小さく、学年との相関関係は見られなかった。ただし、「努力した」だけを見ると、「1年次生」が37.8％と多く、最も少ない「2年次生」とは6.0ポイントの差があった。

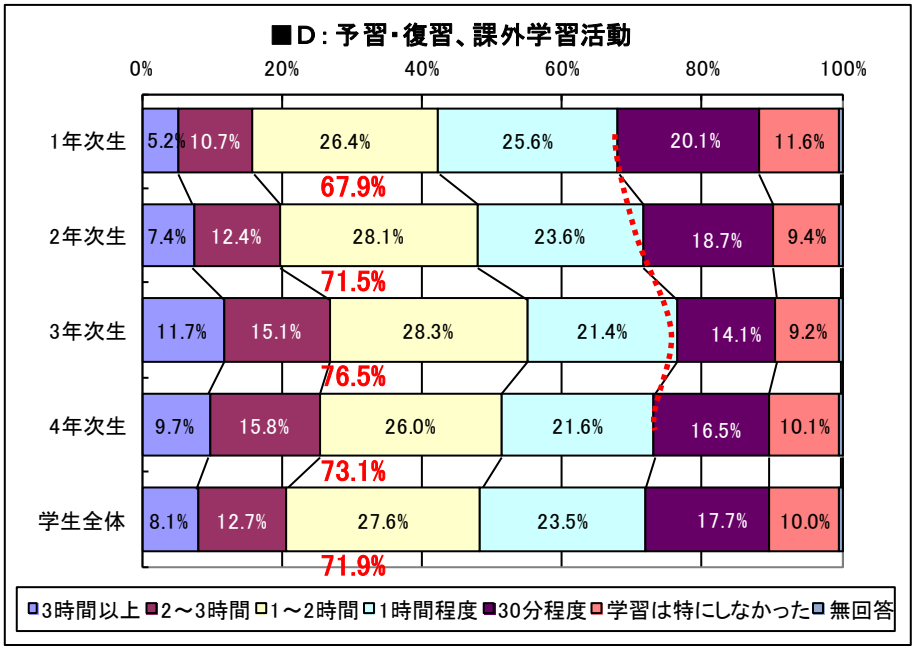


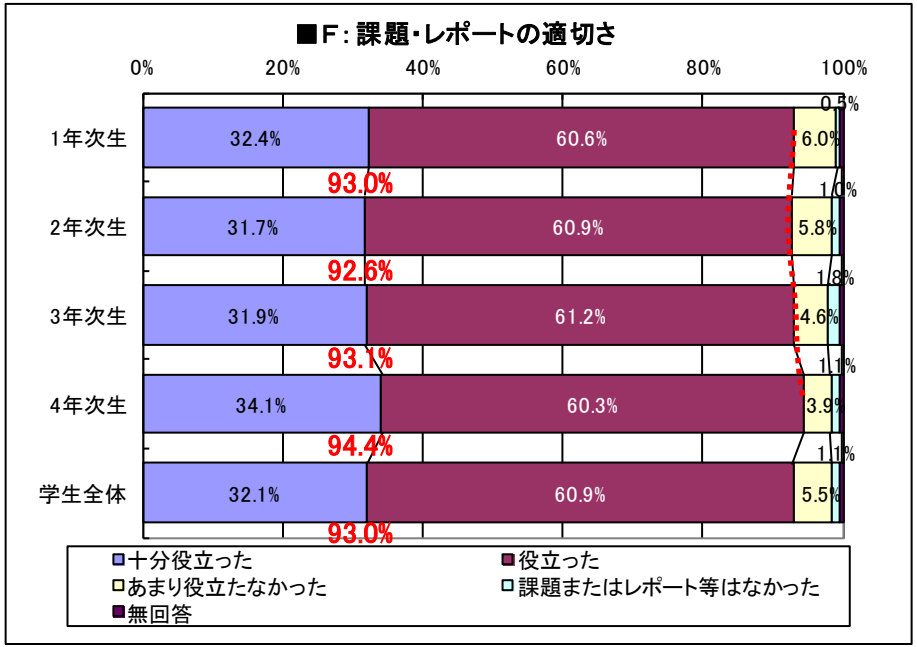




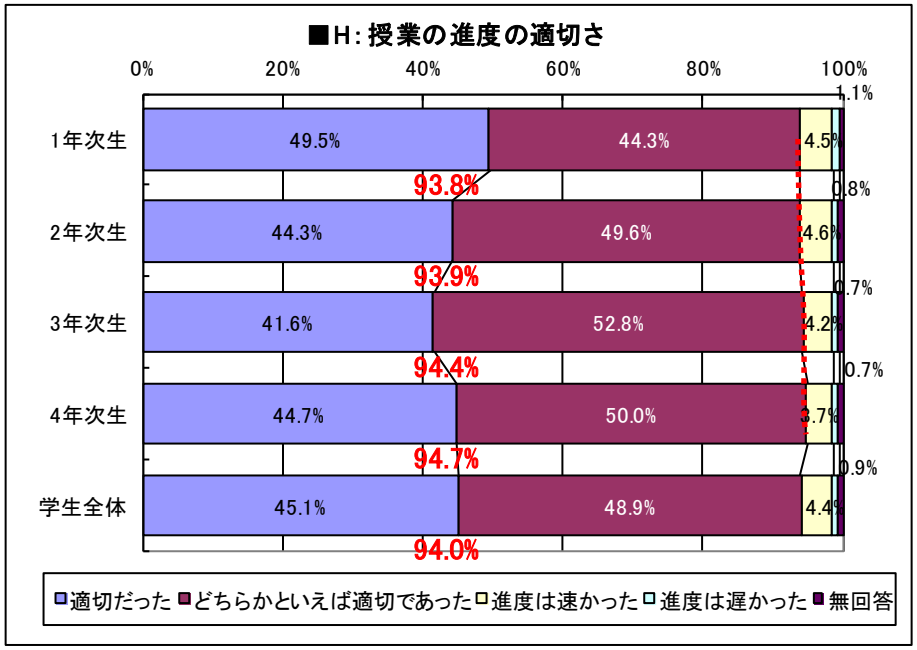
- 「D：予習・復習、課外学習活動」に関して、「1時間程度」までの合計を学年別に比較すると、「1年次生」が67.9%、「2年次生」が71.5%、「3年次生」が76.5%となり、ここまでは高学年の方が学習時間が長くなっており、「3年次生」がしっかりと勉強していることが分かった。そして、「4年次生」は73.1%と、わずかに低下していた。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見で比較すると、「1年次生」が87.6%、「2年次生」が88.6%、「3年次生」が88.7%、「4年次生」が91.2%であり、高学年の方が高い評価となっていた。ただし、「1年次生」と「4年次生」の差は3.6ポイントと、それほど大きくはなかった。
- 「F：課題・レポートの適切さ」を肯定的な意見で比較すると、「1年次生」が93.0%、「2年次生」が92.6%、「3年次生」が93.1%、「4年次生」が94.4%となっており、学年との相関関係は見られなかった。そして、最も高い「4年次生」と最も低い「2年次生」との差は1.8ポイントで、差は非常に少なかった。

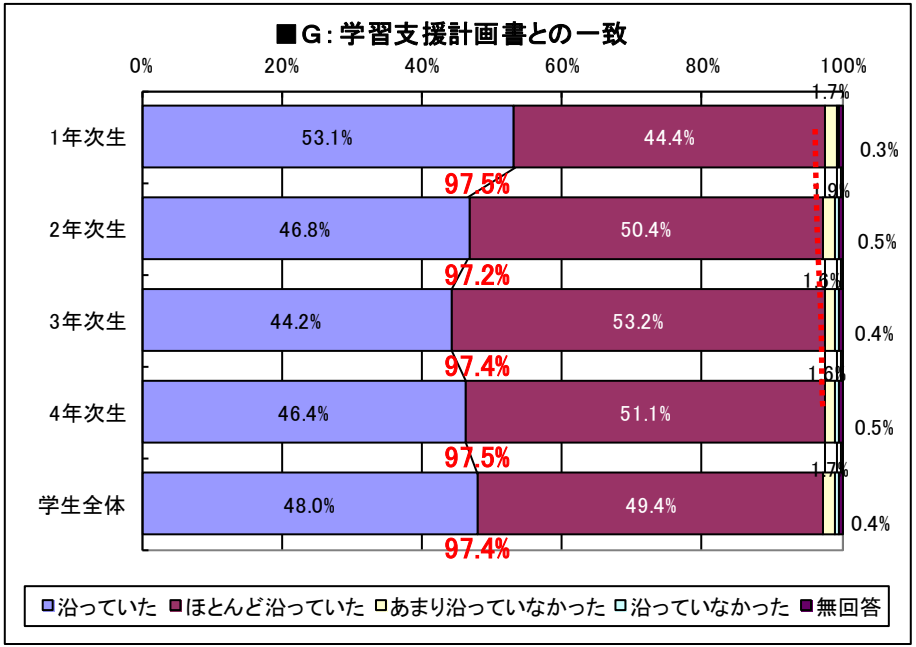


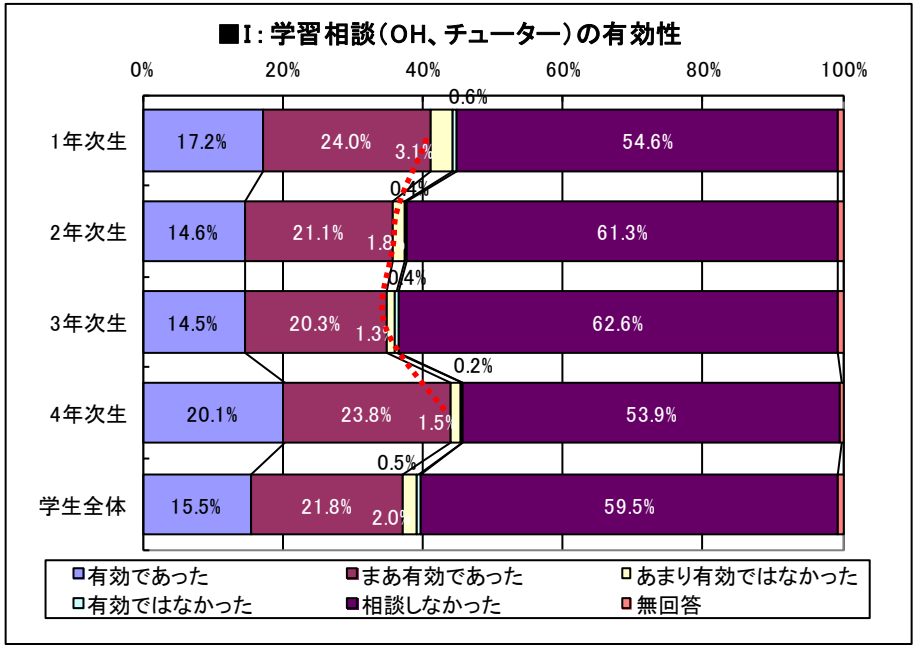




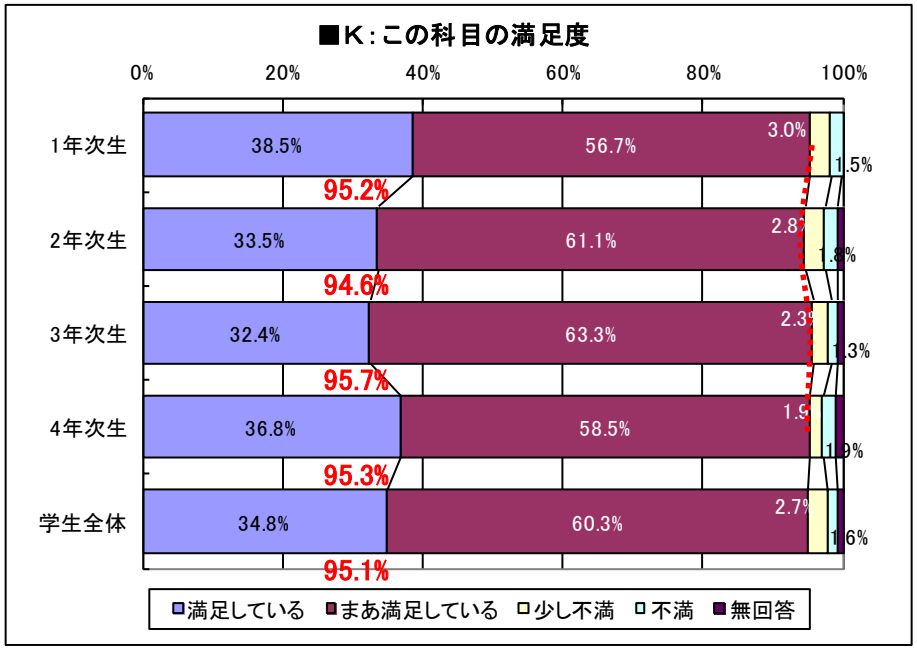
- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的な意見の合計を見ると、全ての学年で97%を超えており、評価は全体的に非常に高かった。肯定的な意見は最も高い「1年次生」と「4年次生」が97.5%、最も低い「2年次生」が97.2%で、差は0.3ポイントとわずかであった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学年間の差が小さく、肯定的な意見の合計で比較すると、最も高い「4年次生」が94.7%、最も低い「1年次生」が93.8%であり、差は0.9ポイントであった。ただし、「適切だった」だけを見ると「1年次生」が49.5%で最も高く、「3年次生」の41.6%とは7.9ポイントの差がついていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「3年次生」が62.6%で最も多く、「2年次生」が61.3%、「1年次生」が54.6%、「4年次生」が53.9%と続いていた。そして、「有効であった」の割合を見ると「4年次生」が20.1%で最も多く、学修相談(OH、チューター)を有効に活用している様子がうかがえた。

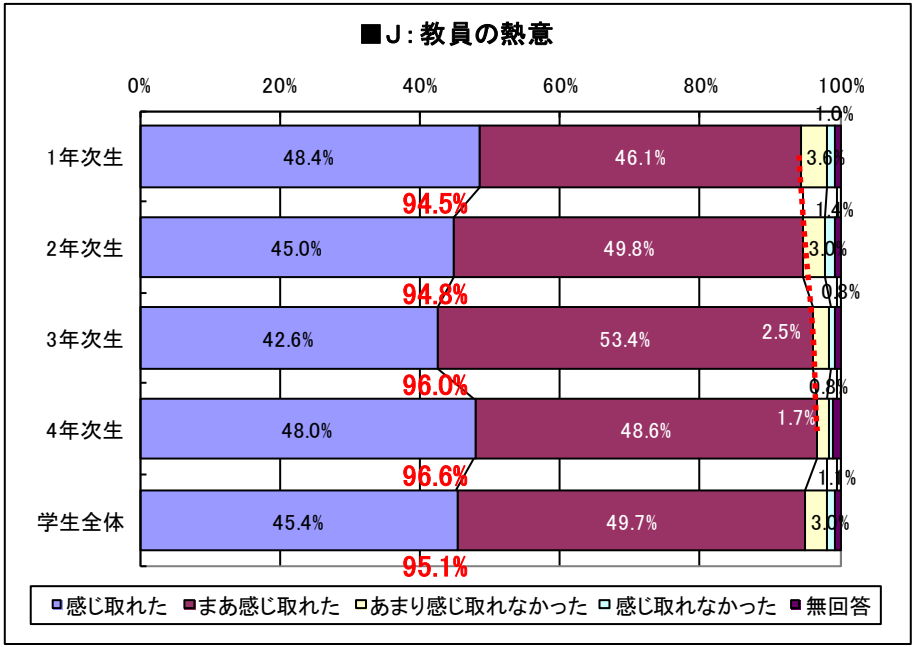






- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見の合計を見ると、「1年次生」が94.5%、「2年次生」が94.8%、「3年次生」が96.0%、「4年次生」が96.6%となっており、上級生ほど教員の熱意を感じている様子がうかがえた。ただし、「1年次生」と「4年次生」との差は2.1ポイントであり、差は大きくなかった。そして、肯定的な意見の合計は最も少なかったものの、「感じ取れた」だけを見ると「1年次生」が最も多かった。
- 「K:この科目の満足度」で肯定的な意見の合計を見ると、「1年次生」が95.2%、「2年次生」が94.6%、「3年次生」が95.7%、「4年次生」が95.3%で学年との相関は見られず、「3年次生」の満足度が最も高く、「2年次生」が最も低かった。ただし、学年による差は最大で1.1ポイントと非常に小さかった。また、「満足している」だけをみると「1年次生」が38.5%と最も多かった。

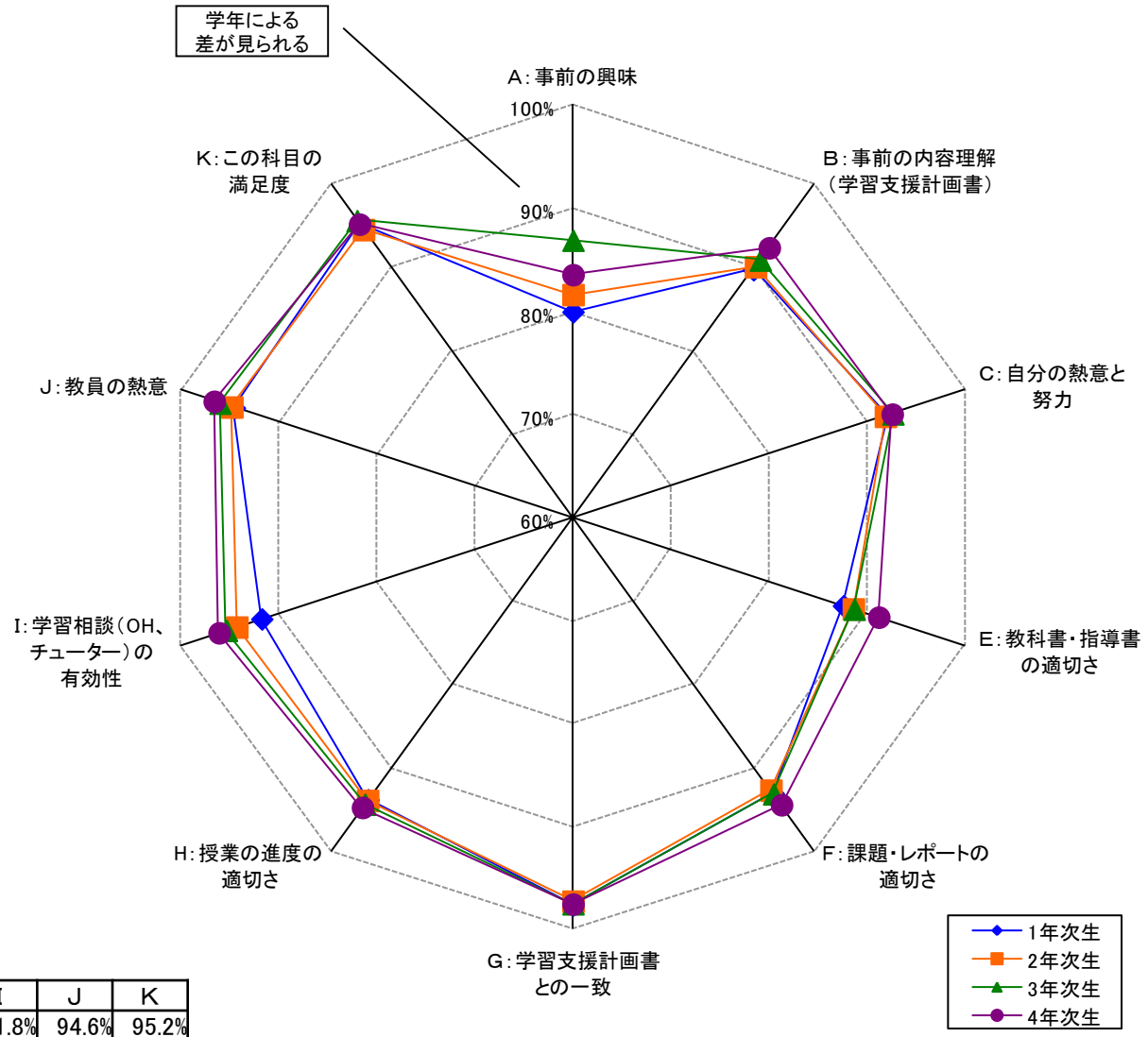




＜3-2＞肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の割合を学年別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的な傾向を見ると、学年間の差は非常に小さかったが、「4年次生」で肯定的な意見がやや多い傾向が見られた。「4年次生」が高かったのは「B:事前の内容理解」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」「H:授業の進度の適切さ」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」であった。
- 学年によって差が大きかったのは「A:事前の興味」であり、「3年次生」の高さが目立っていた。他では「I:学習相談の有効性」で「1年次生」がやや低かった。

■学年別比較レーダーチャート



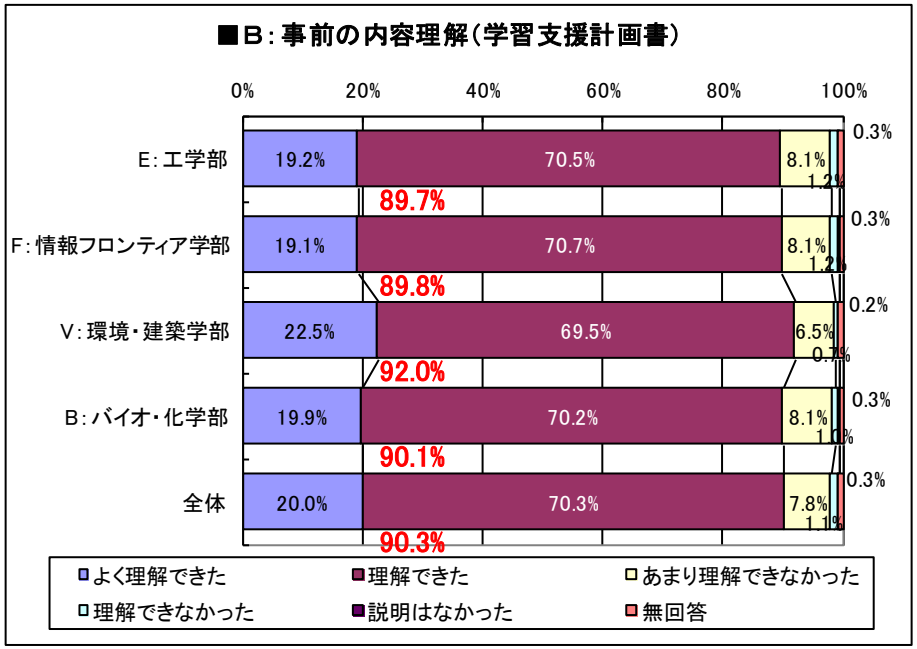
■学年別比較

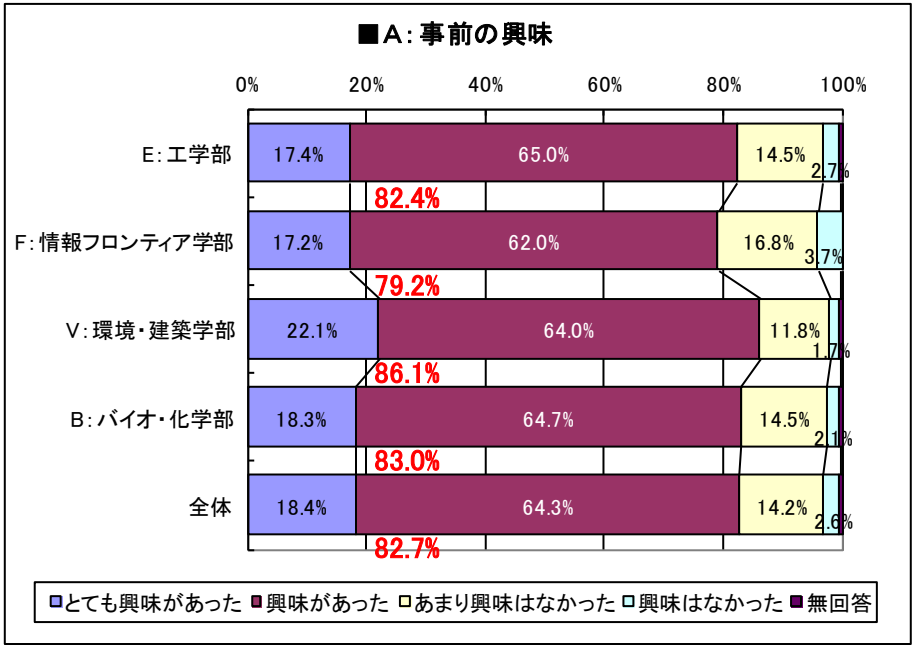
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	80.0%	89.8%	92.2%	87.6%	93.1%	97.6%	93.8%	91.8%	94.6%	95.2%
2年次生	81.7%	90.1%	91.9%	88.6%	92.7%	97.2%	93.9%	94.3%	94.8%	94.6%
3年次生	86.9%	90.9%	92.6%	88.7%	93.1%	97.5%	94.4%	95.4%	96.0%	95.7%
4年次生	83.6%	92.4%	92.6%	91.2%	94.4%	97.5%	94.7%	96.1%	96.6%	95.2%

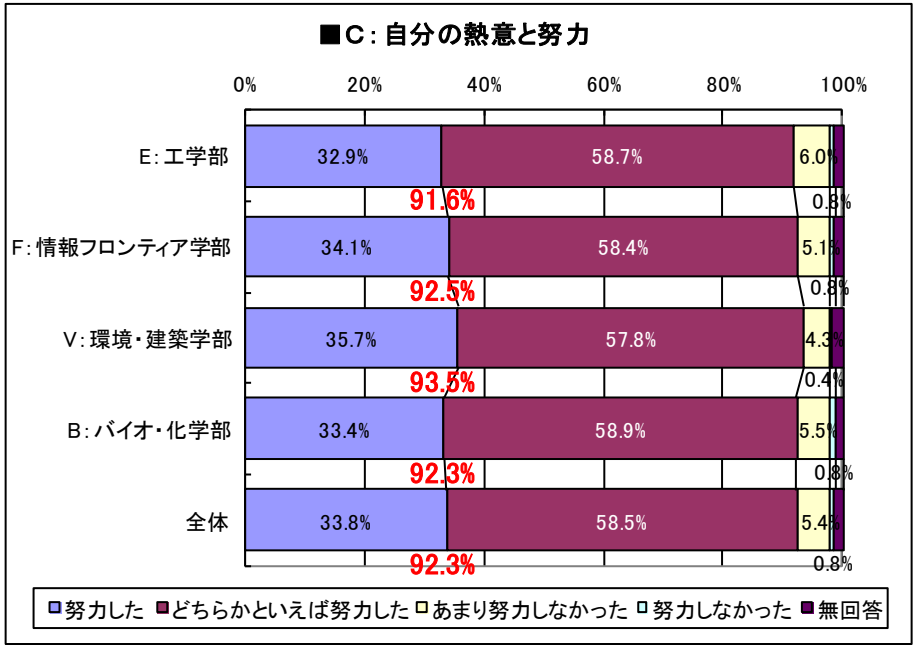
＜4＞学部・学科別の分析

＜4-1＞学部別の比較

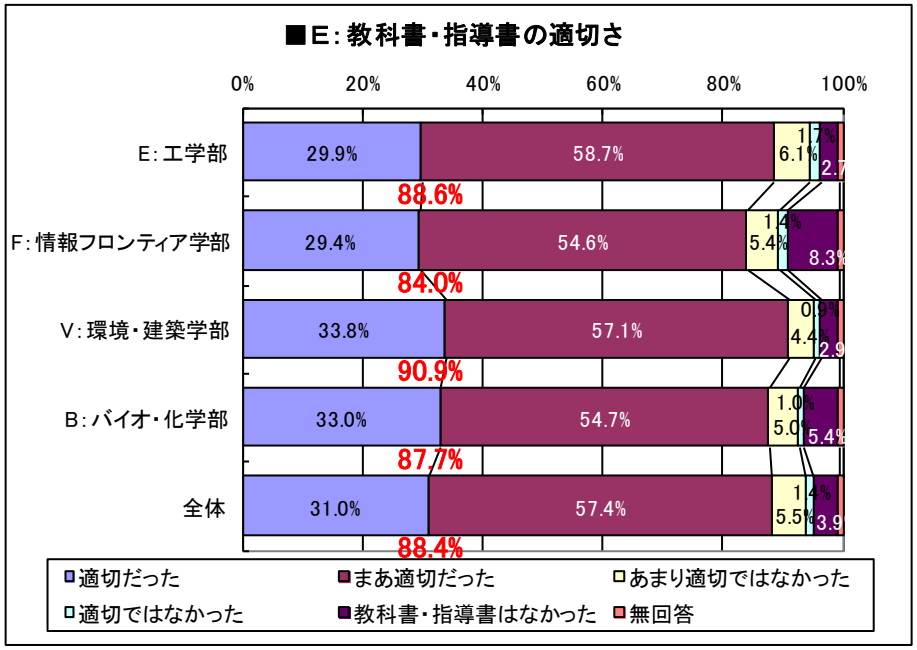
- 「A:事前の興味」を学部別に比較すると、肯定的な意見の合計が最も多かったのは「V:環境・建築学部」の86.1%であり、次いで、「B:バイオ・化学部」が83.0%、「E:工学部」が82.4%、「F:情報フロンティア学部」が79.2%と続いていた。「V:環境・建築学部」と「F:情報フロンティア学部」の差は6.9ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」は学部の差が少なかったが、肯定的な意見の合計が最も多かったのは「V:環境・建築学部」の92.0%であり、「B:バイオ・化学部」が90.1%、「F:情報フロンティア学部」が89.8%、「E:工学部」が89.7%で続いており、全ての学部で9割前後が事前に内容が理解できたという回答であった。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部による差が小さく、全学部で肯定的な意見が9割以上であり、自己評価は非常に高かった。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の93.5%であり、最も低い「E:工学部」との差は1.9ポイントであった。

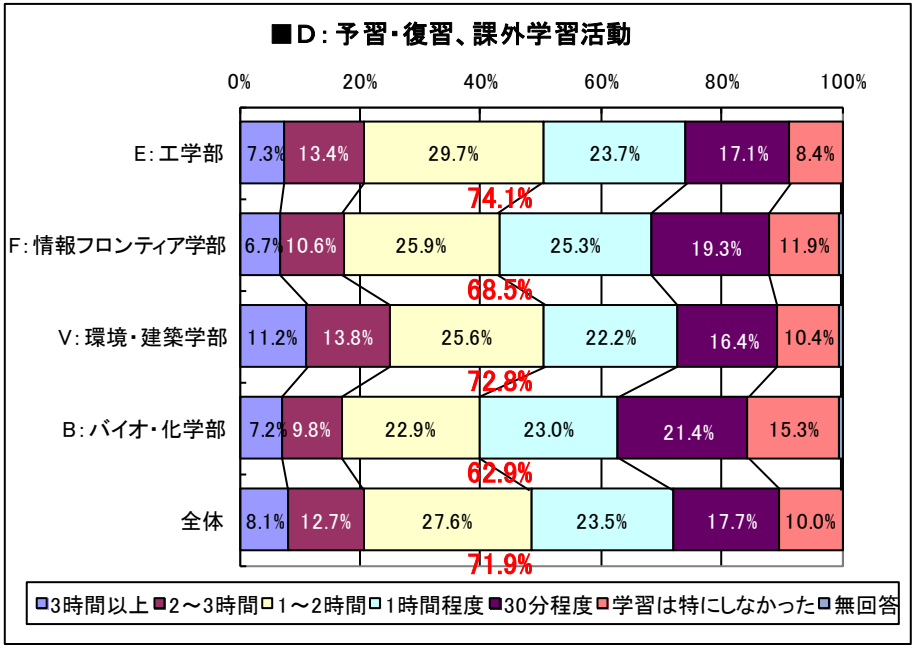


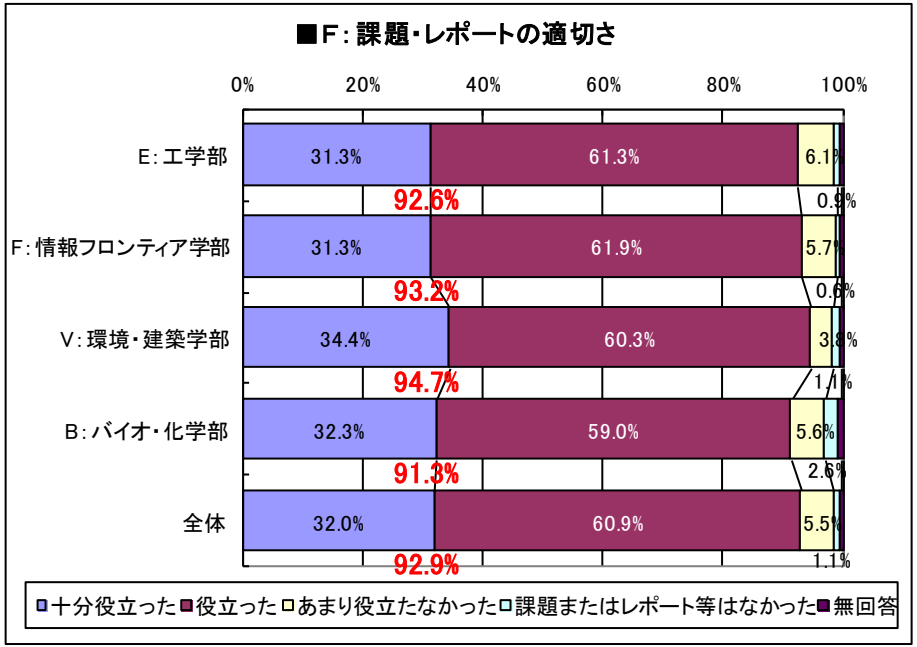




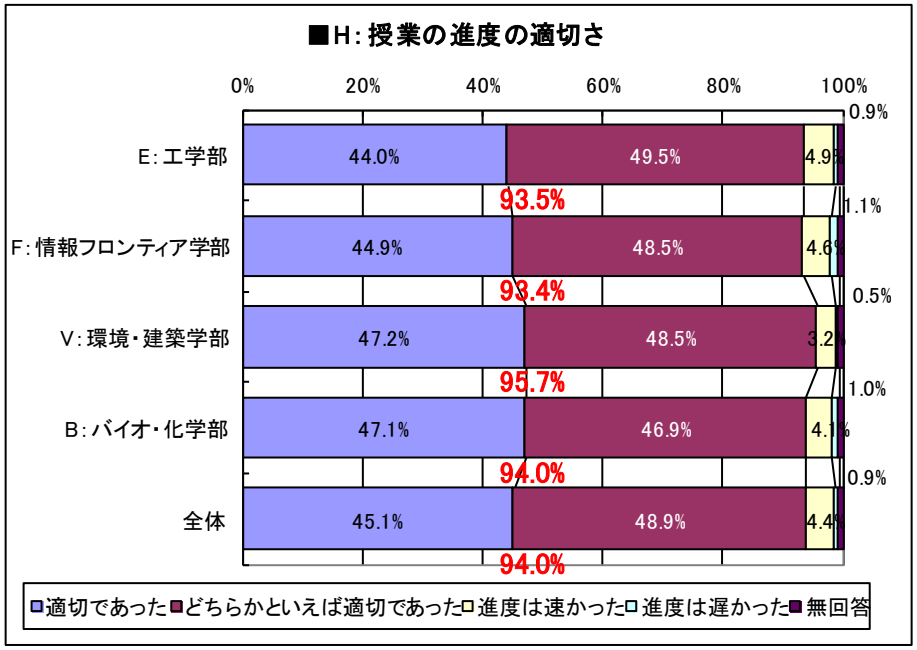
- 「D:予習・復習、課外学習活動」に関して、「1時間程度」までの合計を学部別に比較すると、「E:工学部」が74.1%と最も多く、「V:環境・建築学部」が72.8%、「F:情報フロンティア学部」が68.5%、「B:バイオ・化学部」が62.9%と続いており、「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」の差は11.2ポイントであった。「1時間程度」までの合計は「E:工学部」が多かったが、「3時間以上」「2～3時間」はいずれも「V:環境・建築学部」が最も多かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」が90.9%と最も多く、次いで、「E:工学部」が88.6%、「B:バイオ・化学部」が87.7%、「F:情報フロンティア学部」が84.0%と続いており、差は最大で6.9ポイントであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は肯定的な意見が全学部で9割以上となっており、全体的に非常に高い評価であった。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の94.7%であり、最も低い「B:バイオ・化学部」の91.3%とは3.4ポイントの差であった。

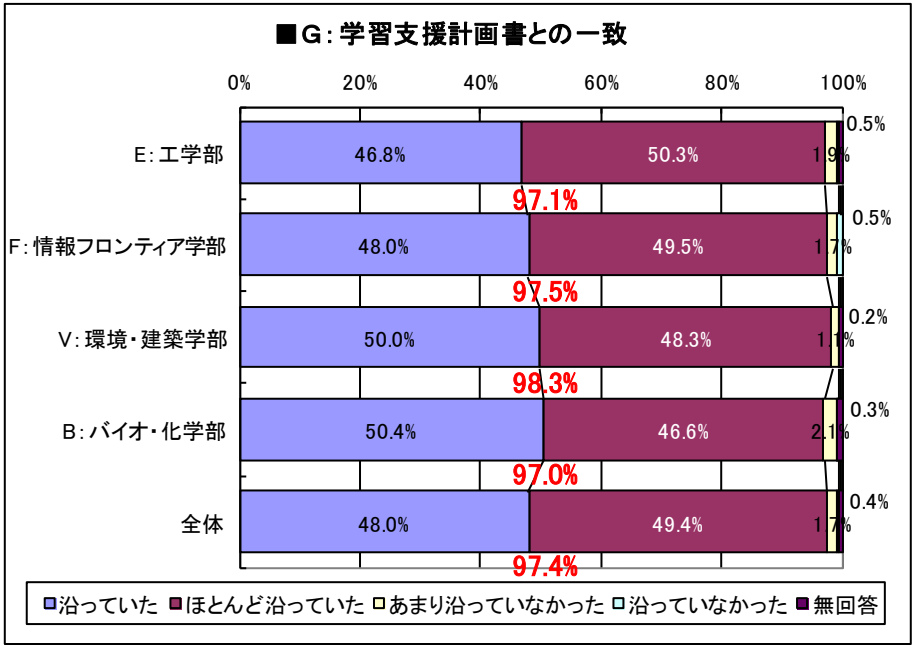


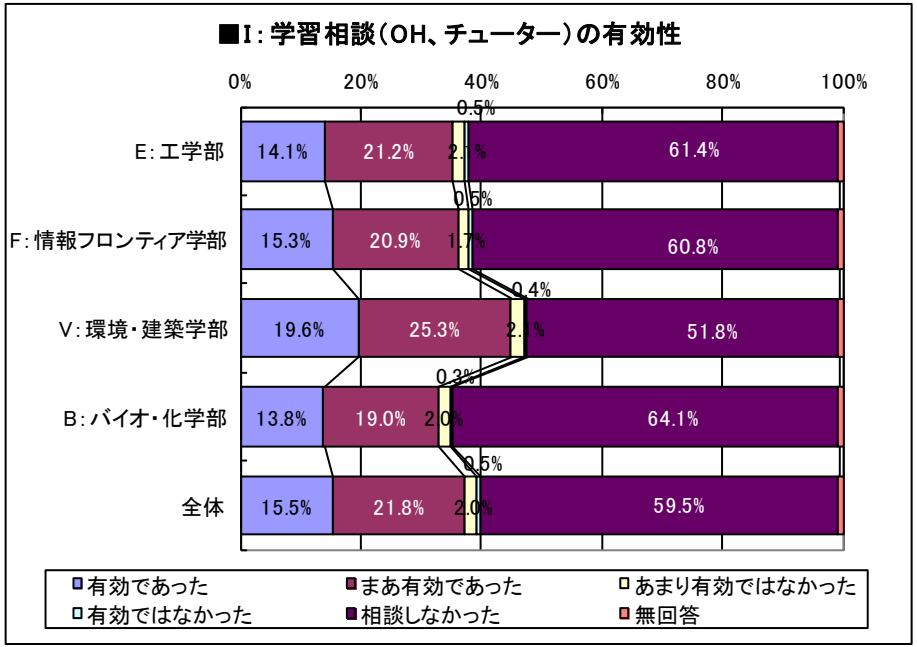




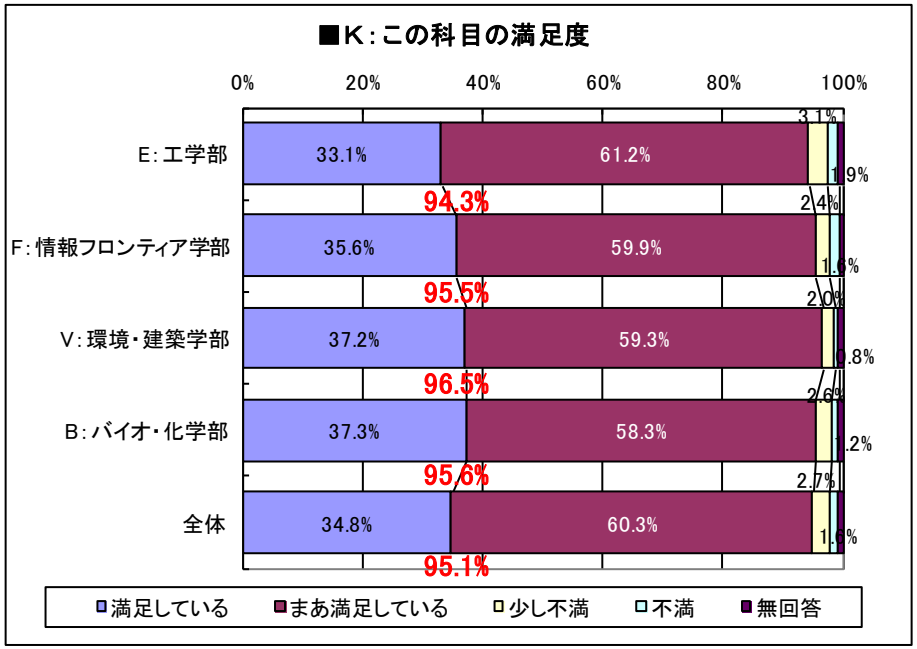
- 「G:学習支援計画書との一致」の評価は非常に高く、全学部で95%以上が肯定的な意見であった。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の98.3%であり、最も低い「B:バイオ・化学部」でも97.0%が肯定的な意見であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全学部で9割以上が肯定的な意見であり、大きな問題は見られなかった。最も高かったのは「V・環境・建築学部」の95.7%、最も低かったのは「F:情報フロンティア学部」の93.4%であり、差は2.3ポイントであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「V:環境・建築学部」が51.8%で、他と比べると少なさが目立っており、学習相談をよく利用しているようであった。そして、評価を見ると、否定的な意見は全学部で2～3%程度であり、学習相談を利用している学生からの評価は非常に高かった。

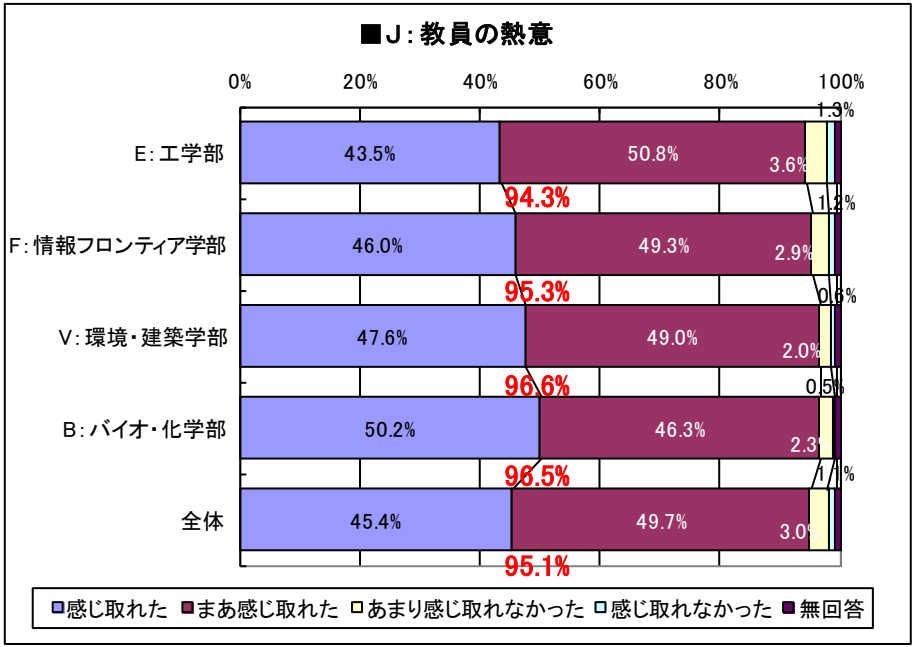






- 「J:教員の熱意」も全学部で9割以上が肯定的な意見であり、評価は非常に高いと言える。最も高かったのは「V・環境・建築学部」の96.6%であり、「B:バイオ・化学部」が96.5%、「F:情報フロンティア学部」が95.3%、「E:工学部」が94.3%と続いていた。肯定的な意見の合計は、学部による差が最大で2.3ポイントと小さかったが、「感じ取れた」だけを見ると「B:バイオ・化学部」の50.2%の多さが目立っており、差は最大で6.7ポイントであった。
- 「K:この科目の満足度」も全学部で9割以上が肯定的な意見であり、非常に高い満足度であると言える。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の96.5%であり、「B:バイオ・化学部」が95.6%、「F:情報フロンティア学部」が95.5%、「E:工学部」が94.3%と続いており、差は最大で2.2ポイントであった。そして、「満足している」だけを見ると、「B:バイオ・化学部」が37.3%と最も多く、「V:環境・建築学部」が37.2%で続いていた。



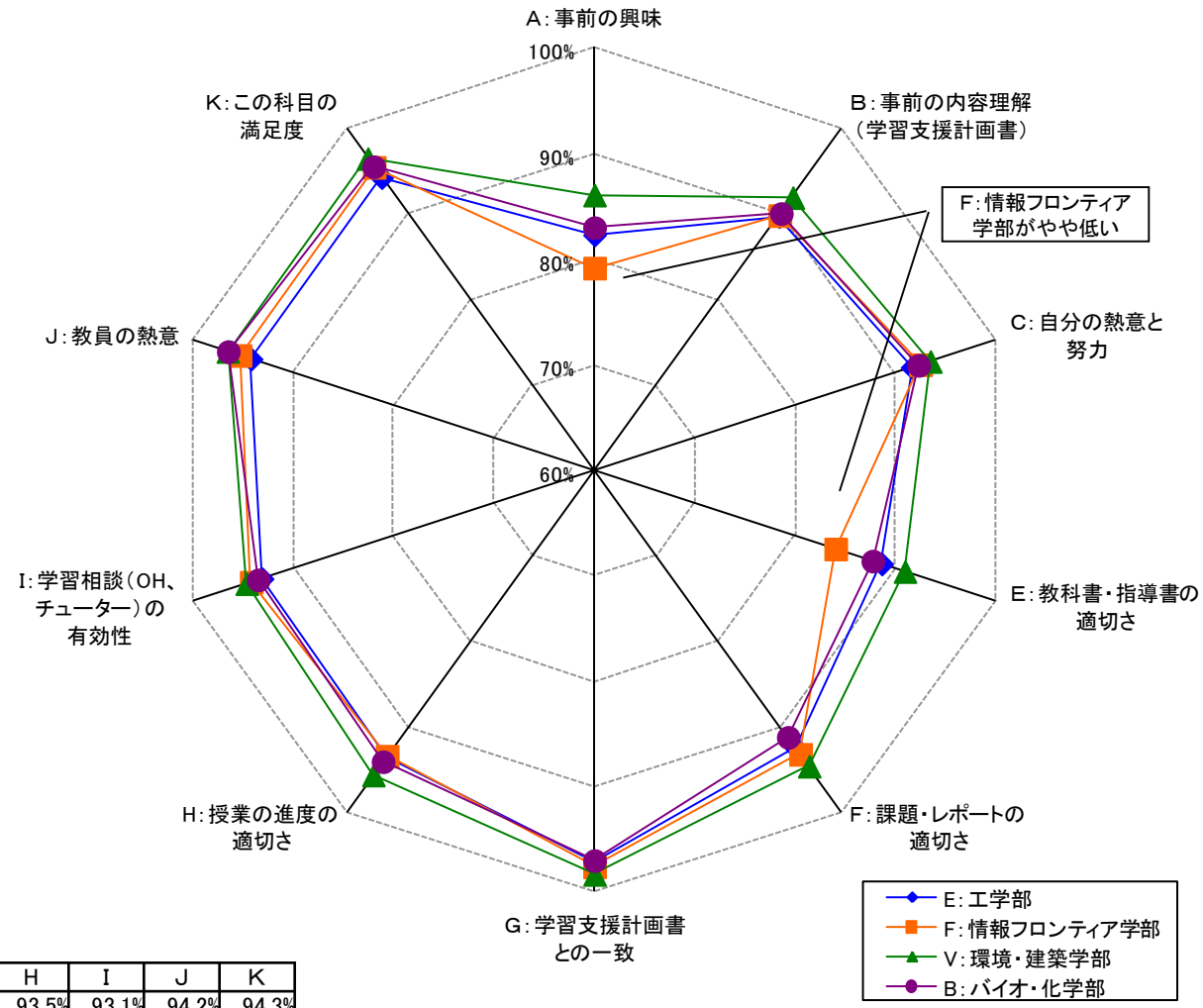


＜4-2＞肯定的な意見の学部別比較

- 肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的に学部の差は小さかったが、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」でやや差が大きく、「V:環境・建築学部」が高く、「F:情報フロンティア学部」が低めであった。
- 上記の2項目以外は学部による差が小さかったものの、全ての項目で「V:環境・建築学部」が最も高く、全体的に低い学部は見られなかった。

■学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。



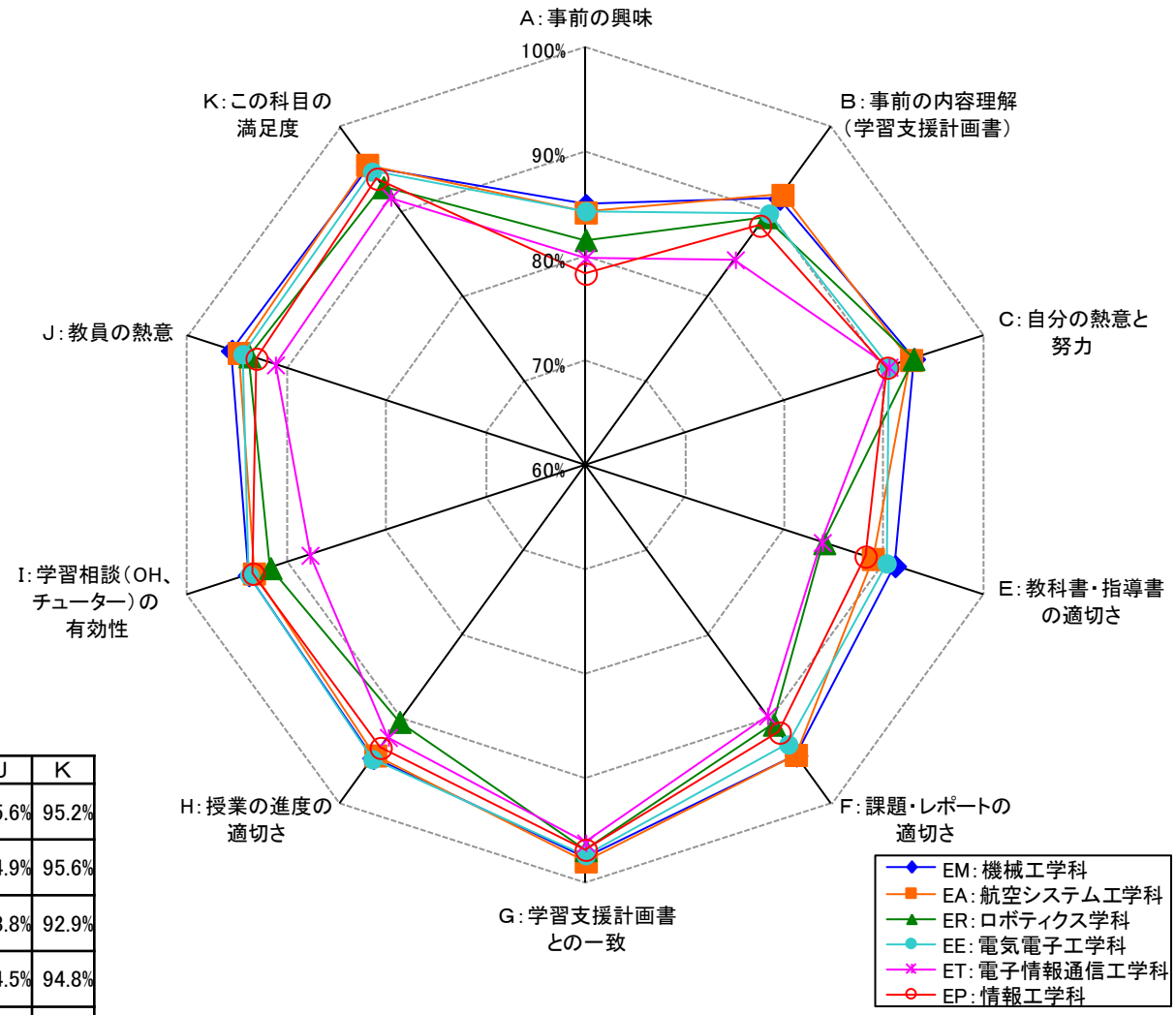
■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	82.3%	89.8%	91.6%	88.6%	92.5%	97.1%	93.5%	93.1%	94.2%	94.3%
F:情報フロンティア学部	79.2%	89.9%	92.5%	84.0%	93.2%	97.5%	93.4%	94.2%	95.3%	95.5%
V:環境・建築学部	86.1%	92.0%	93.5%	90.9%	94.6%	98.3%	95.7%	94.7%	96.5%	96.6%
B:バイオ・化学部	83.0%	90.1%	92.3%	87.7%	91.2%	96.9%	94.1%	93.5%	96.5%	95.6%

＜4-3＞肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をした。
- 「工学部」は「ER:ロボティクス学科」と「ET:電子情報通信工学科」が全体的にやや低めであり、全体的に目立って高い学科は見られなかった。
- 「ET:電子情報通信工学科」はほとんどの項目で最も低くなっており、「B:事前の内容理解」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」などの低さが目立っていた。
- 「ER:ロボティクス学科」は「H:授業の進度の適切さ」は最も低く、「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」も低かった。
- 全体的に目立って高い学科はなかったものの、わずかではあるが「EM:機械工学科」と「EA:航空システム工学科」で高いものが多く見られた。
- 上記以外では、「EP:情報工学科」の「A:事前の興味」が低い点が目立っていた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

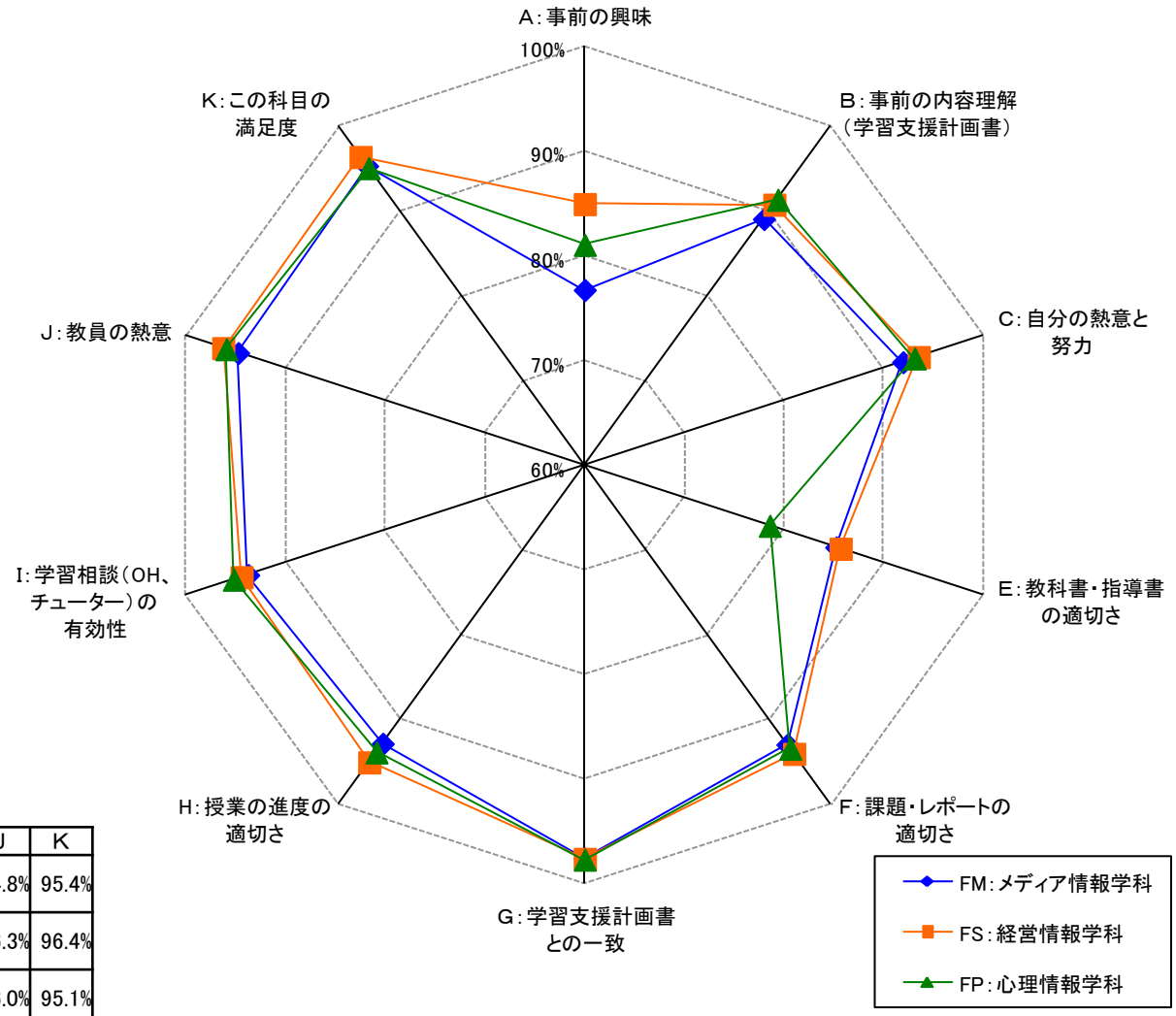


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM:機械工学科	84.9%	91.6%	93.0%	91.1%	94.3%	97.5%	94.6%	93.9%	95.6%	95.2%
EA:航空システム工学科	84.2%	92.0%	92.7%	88.9%	94.2%	97.9%	94.3%	93.4%	94.9%	95.6%
ER:ロボティクス学科	81.6%	89.4%	93.0%	84.0%	90.6%	96.8%	90.3%	91.7%	93.8%	92.9%
EE:電気電子工学科	84.3%	89.8%	90.4%	90.3%	93.0%	97.3%	94.7%	93.9%	94.5%	94.8%
ET:電子情報通信工学科	79.9%	84.3%	90.5%	83.8%	89.6%	96.1%	92.1%	87.7%	91.2%	91.7%
EP:情報工学科	78.4%	88.4%	90.3%	88.1%	91.6%	96.7%	93.4%	93.4%	93.1%	93.9%

- 「情報フロンティア学部」では、2つの項目を除いて学科間の差はほとんど見られなかった。
- 学科間の差がついていたのは、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」であり、「A:事前の興味」に関しては、「FS:経営情報学科」が高く、「FM:メディア情報学科」が目立って低くなっていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」に関しては、「FP:心理情報学科」の低さが目立っており、他の2学科には差は見られなかった。
- 上記の2つの項目以外では、学科間の差はほとんど見られず、特定の学科が高かったり、低かったりという特徴もなかった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

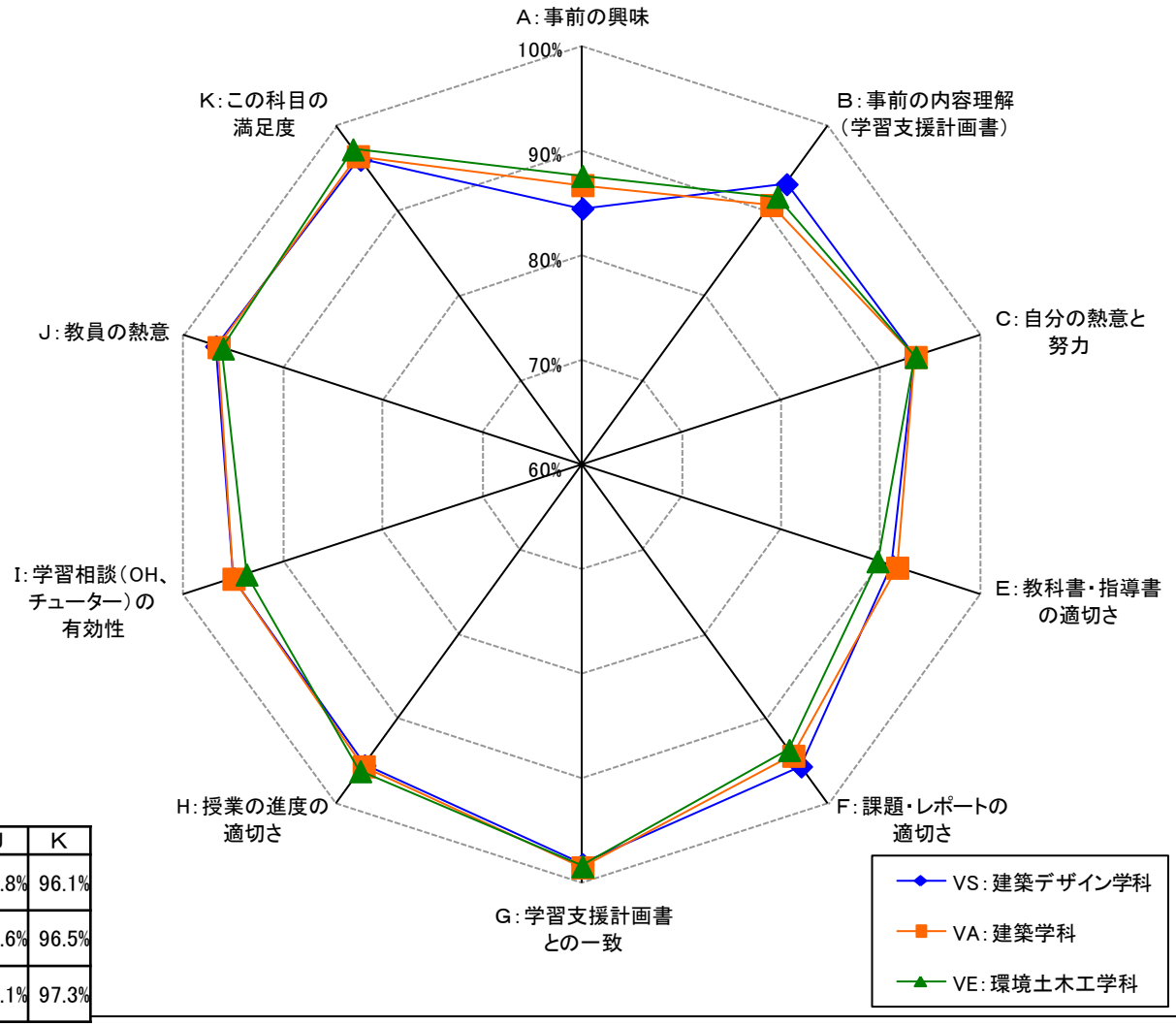


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	76.8%	89.1%	92.0%	85.2%	92.9%	97.5%	92.8%	93.8%	94.8%	95.4%
FS:経営情報学科	85.0%	90.8%	93.5%	85.7%	94.0%	97.5%	95.0%	94.5%	96.3%	96.4%
FP:心理情報学科	81.1%	91.4%	93.1%	78.6%	93.4%	97.6%	93.8%	95.2%	96.0%	95.1%

- 「環境・建築学部」の3学科は、学科の差が非常に小さく、大きな特徴は見られなかった。
- わずかな差ではあるが「VS：建築デザイン学科」は「A:事前の興味」がやや低く、「B:事前の内容理解」が高かった。そして、「VE：環境土木学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」がわずかに低かった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

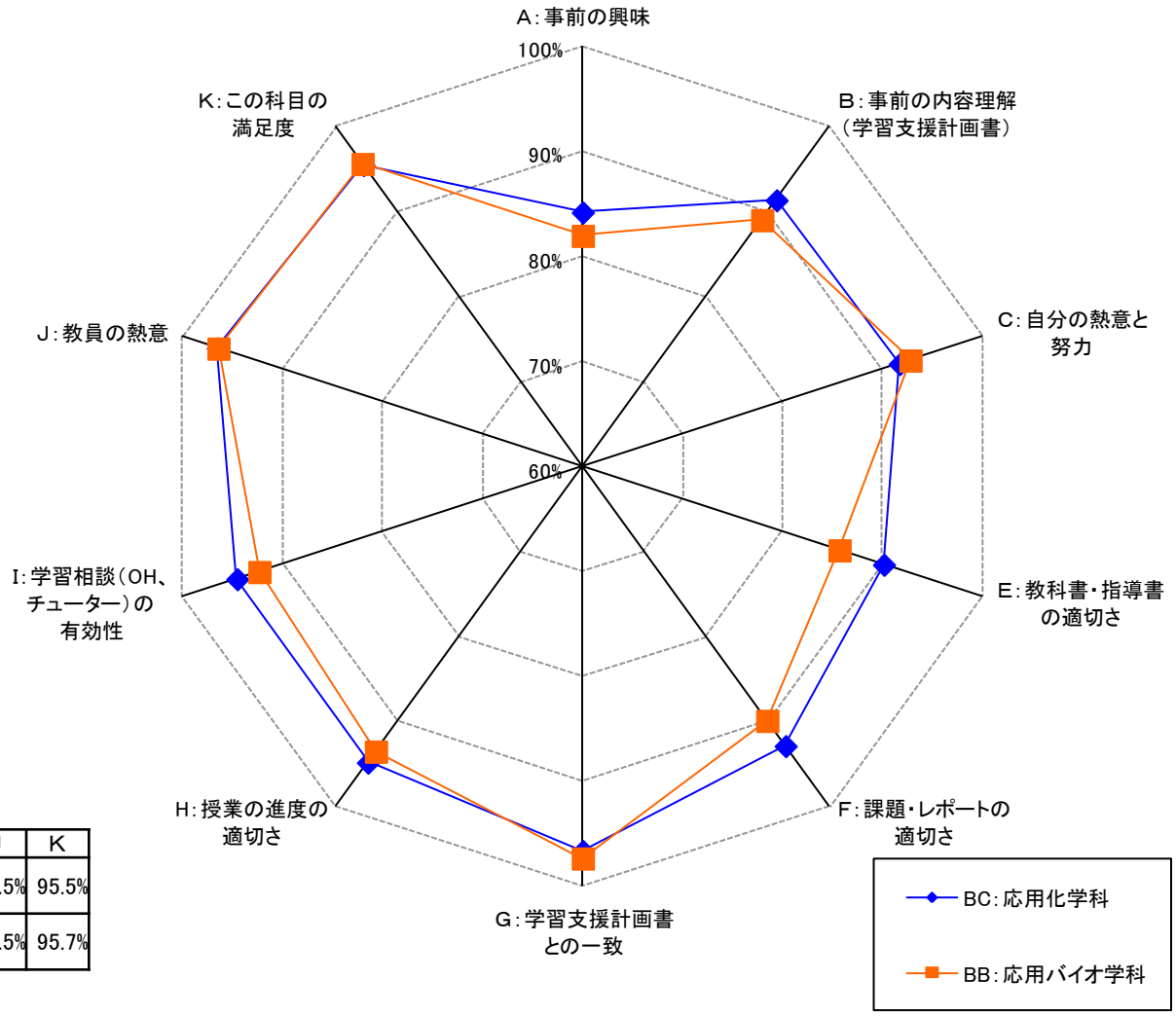


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VS：建築デザイン学科	84.5%	93.2%	93.4%	91.2%	95.6%	98.1%	95.4%	95.0%	96.8%	96.1%
VA：建築学科	86.8%	90.7%	93.5%	91.6%	94.3%	98.4%	95.5%	95.1%	96.6%	96.5%
VE：環境土木工学科	87.7%	91.7%	93.5%	89.7%	93.6%	98.3%	96.1%	93.8%	96.1%	97.3%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較であるが、いくつかの項目で「BC：応用化学科」がやや高めであった。
- 「C:自分の熱意と努力」「G:学習支援計画書との一致」「J:教員の熱意」「K：この科目の満足度」は2つの学科でほとんど差が見られなかったが、他の6項目は「BC:応用化学科」の方が高く、最も差が大きかったのは「E:教科書・指導書の適切さ」であった。

■バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



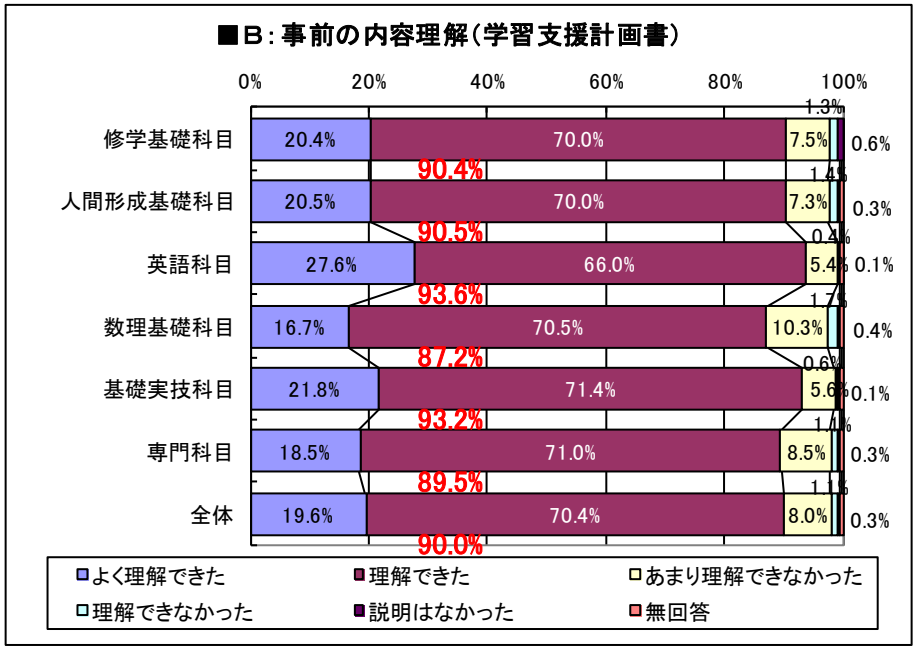
■バイオ・化学部 学科別比較

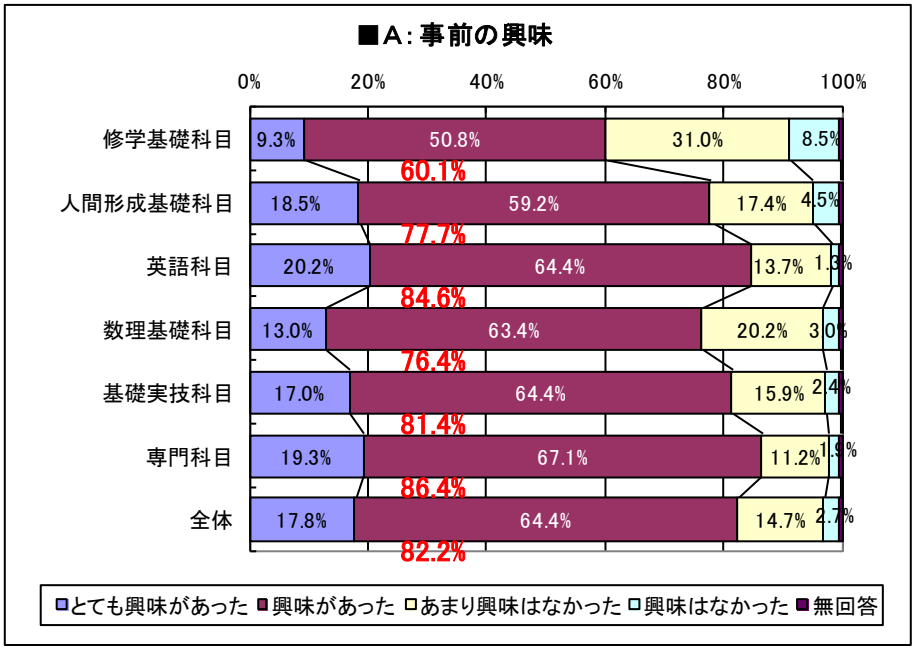
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC：応用化学科	84.2%	91.4%	91.7%	90.1%	92.8%	96.6%	94.8%	94.6%	96.5%	95.5%
BB：応用バイオ学科	82.0%	89.0%	92.8%	85.7%	89.9%	97.3%	93.5%	92.4%	96.5%	95.7%

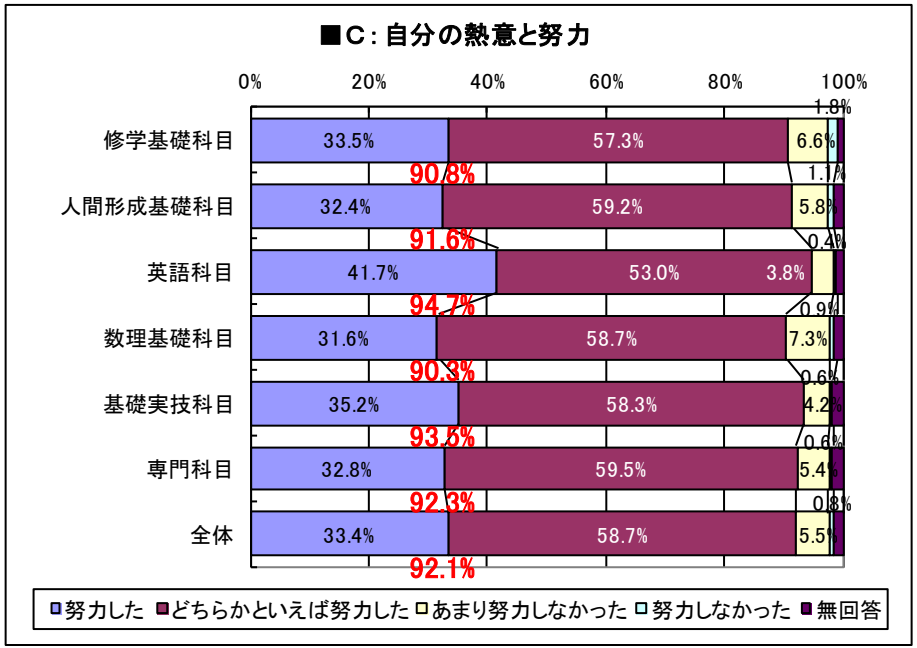
＜5＞科目区分別の分析

＜5-1＞科目区分別の比較

- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価の違いを見た。
- 「A:事前の興味」では、「専門科目」で肯定的な意見が86.4%と多く、「英語科目」が84.6%、「基礎実技科目」が81.4%と続いていた。一方、「修学基礎科目」では60.1%と少なさが目立っており、「専門科目」との差は26.3ポイントとやや大きかった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」は科目区分による差が少なく、肯定的な意見が最も多かった「基礎実技科目」の93.2%と、最も少なかった「数理基礎科目」の87.2%との差は6.0ポイントであった。ただし、「よく理解できた」だけを見ると「英語科目」が27.6%と多さが目立っていた。
- 「C:自分の熱意と努力」も科目区分による差が小さく、全科目区分で肯定的な意見が9割を超えていた。中でも最も多かったのは「英語科目」の94.7%であり、特に「努力した」が41.7%と多さが目立っていた。一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「数理基礎科目」の90.3%であったが、決して低い評価ではなかった。

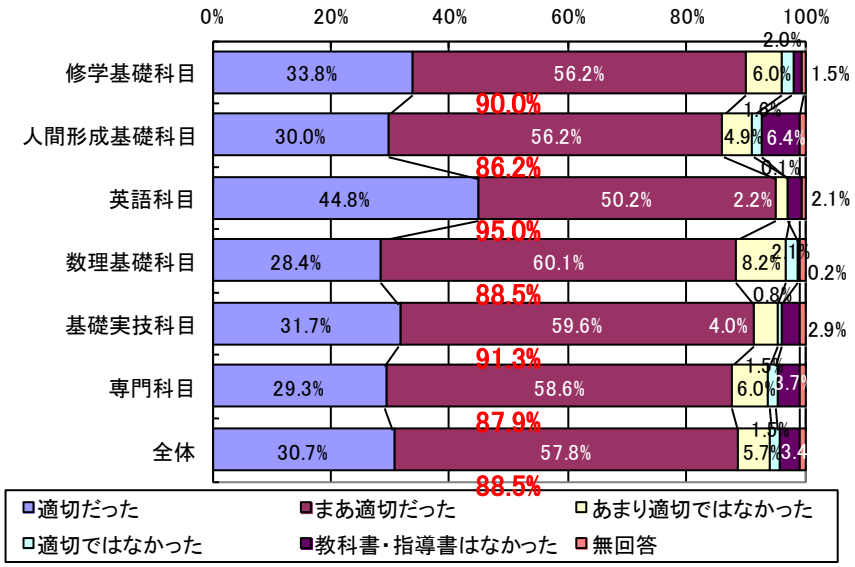




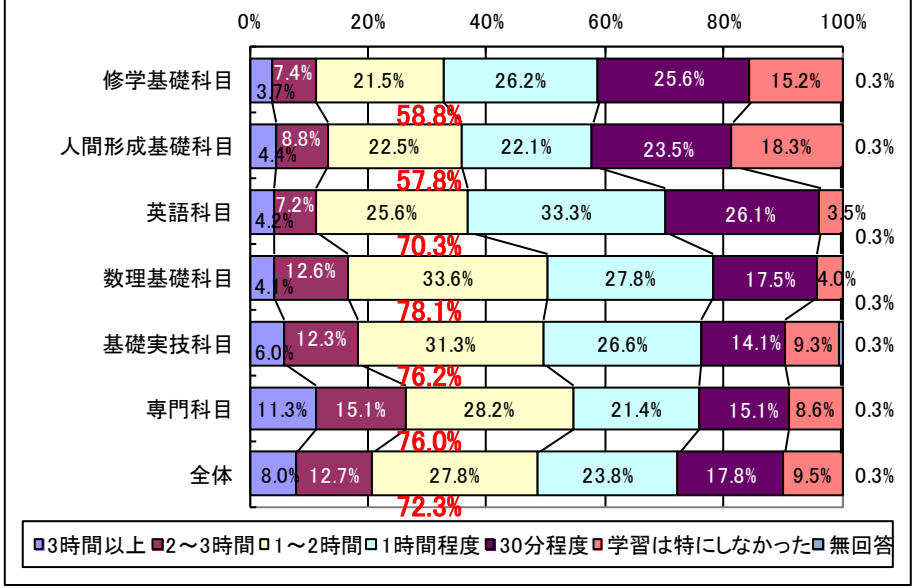


- 「D：予習・復習、課外学習活動」に関して、「1時間程度」までの合計で比較すると、「数理基礎科目」が78.1%、「基礎実技科目」が76.2%、「専門科目」が76.0%と続いており、この3つの科目区分でしっかりと予習・復習、課外学習活動の時間を取っていることが分かった。一方、時間が少なかったのは、「人間形成基礎科目」の57.8%、「修学基礎科目」の58.8%であった。
- 「E：教科書・指導書の適切さ」は全体的に肯定的な意見が多かった。最も多かったのは「英語科目」の95.0%であり、特に「適切だった」が44.8%と多い点が目立っていた。次いで、「基礎実技科目」が91.3%、「修学基礎科目」が90.0%であった。一方、最も少なかったのは「人間形成基礎科目」の86.2%であったが、この評価も非常に高いものと言える。
- 「F：課題・レポートの適切さ」では全ての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、非常に評価が高かった。最も高かったのは「英語科目」の97.1%であり、特に「十分役立った」が42.6%と多い点が目立っていた。一方、最も低かったのは「修学基礎科目」であったが、肯定的な意見は91.4%と評価は非常に高かった。

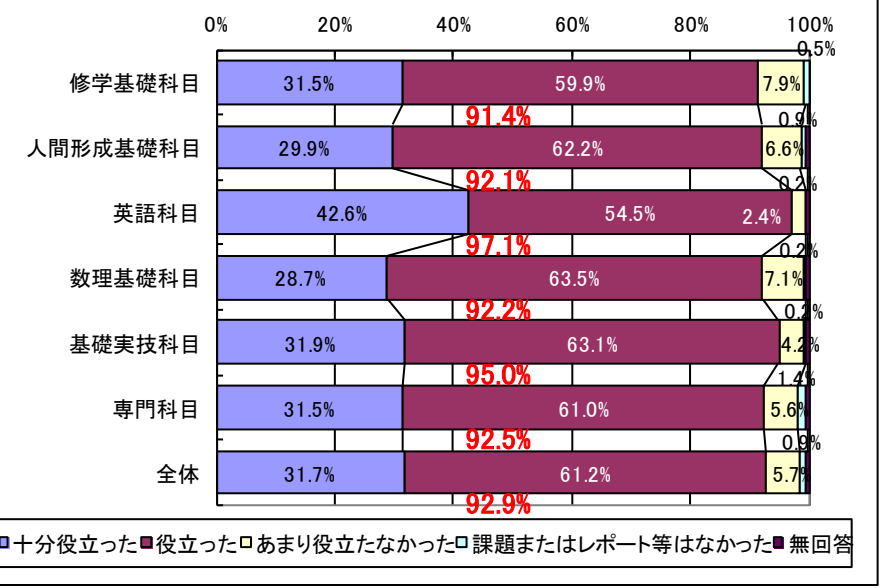
■E：教科書・指導書の適切さ



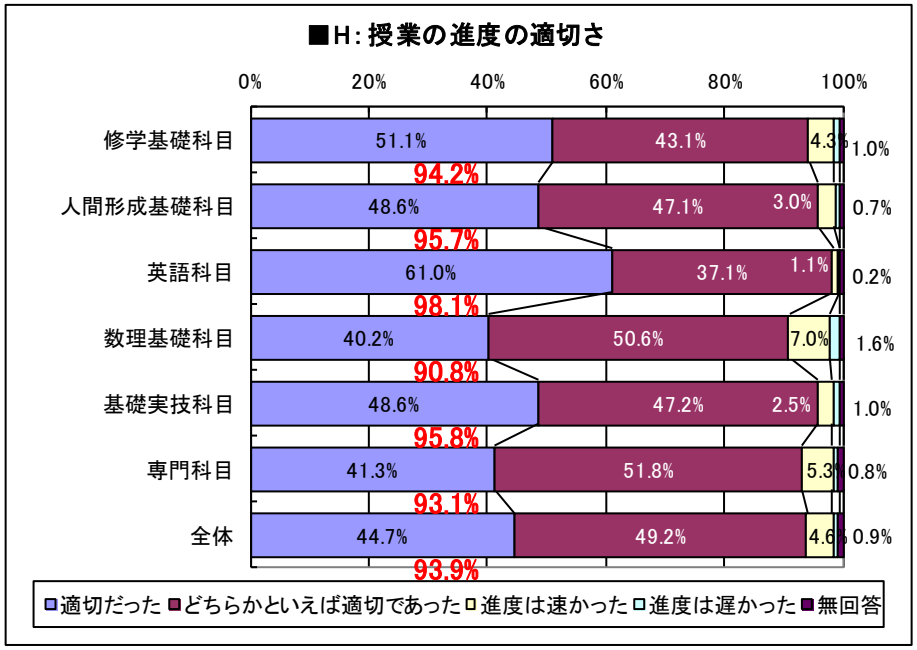
■D：予習・復習、課外学習活動

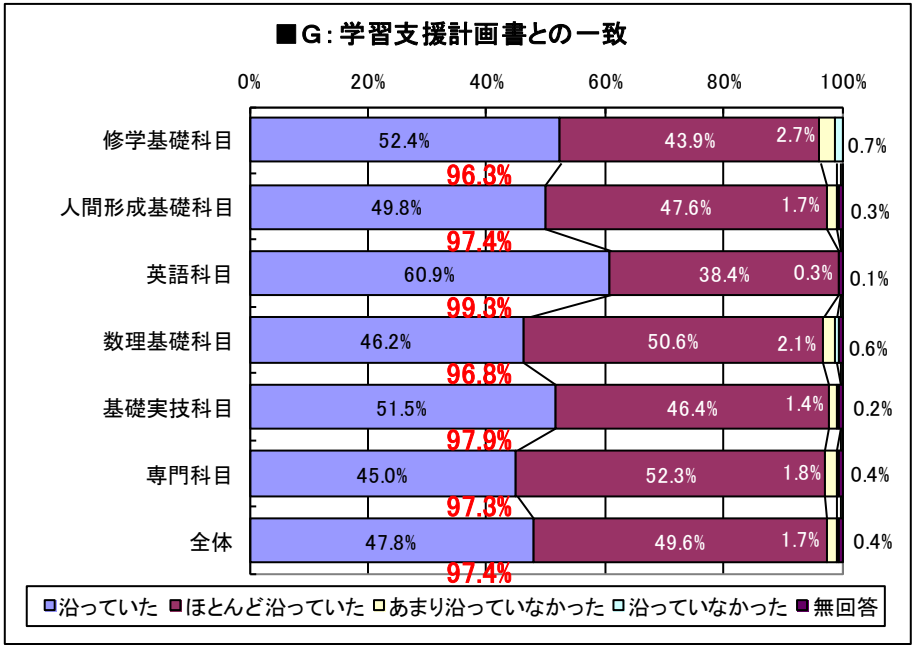


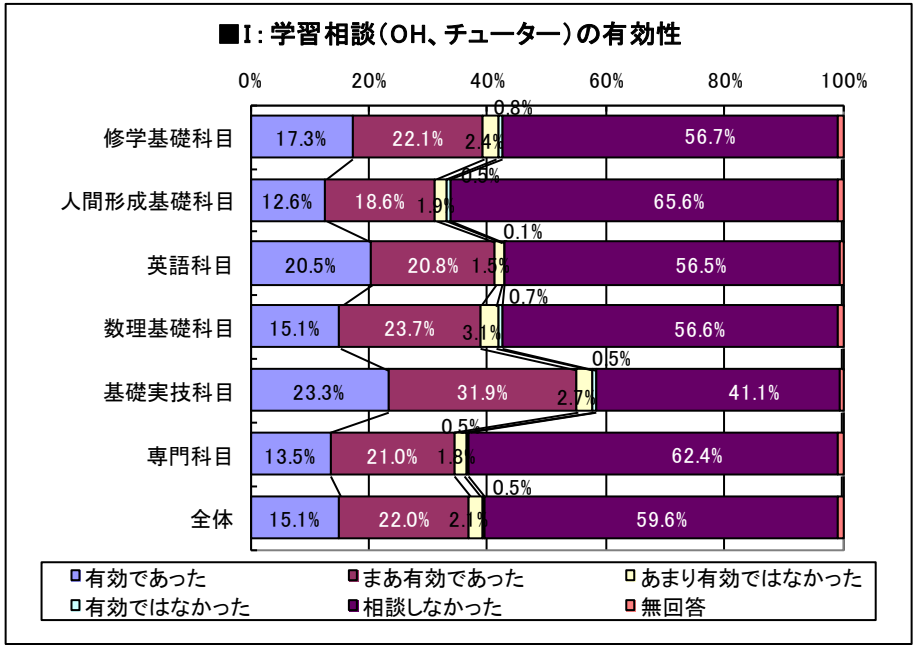
■F：課題・レポートの適切さ



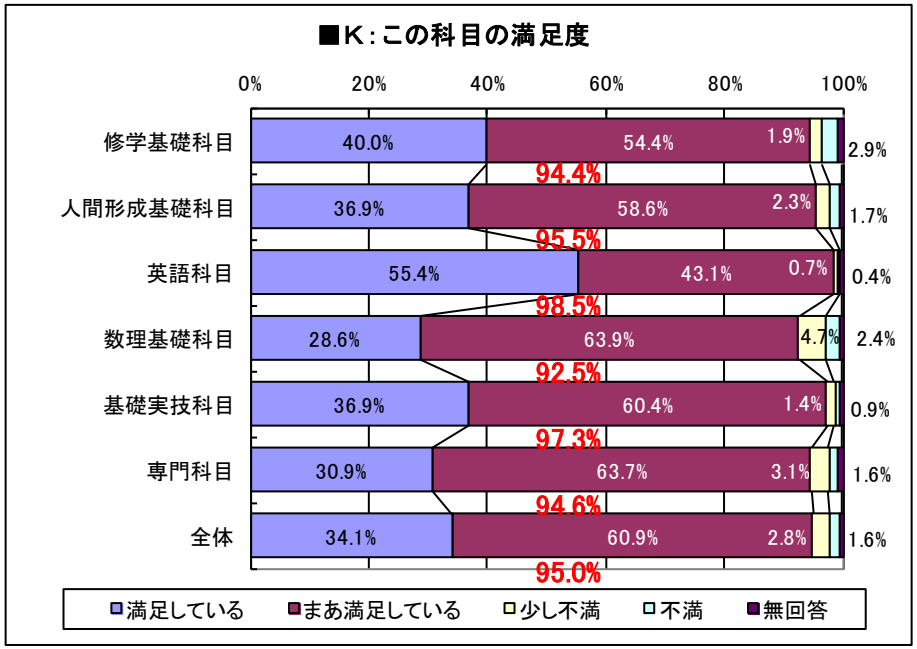
- 「G:学習支援計画書との一致」の評価は全体的に高く、全ての項目で肯定的な意見が95.0%を超えていた。最も評価が高かったのは「英語科目」の99.3%であり、ほぼ全員が肯定的な評価をしており、「沿っていた」だけを見ても60.9%と、6割を超えていた。そして、最も低かった「修学基礎科目」でも、肯定的な意見は96.3%であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全ての項目で肯定的な意見が9割を超えていた。ここでも最も肯定的な意見が多かったのは「英語科目」の98.1%であり、「適切だった」だけを見ても61.0%と多かった。そして、最も低い「数理基礎科目」でも肯定的な意見は90.8%であり、高い評価となっていた。
- 「I:学習相談の有効性」を「相談しなかった」の割合で比較すると、「基礎実技科目」が41.1%と低く、しっかりと学習相談を利用している様子がうかがえた。そして、利用者の内容評価を見ると、全ての科目区分で、ほとんどが肯定的な評価であり、内容的には満足しているようであった。

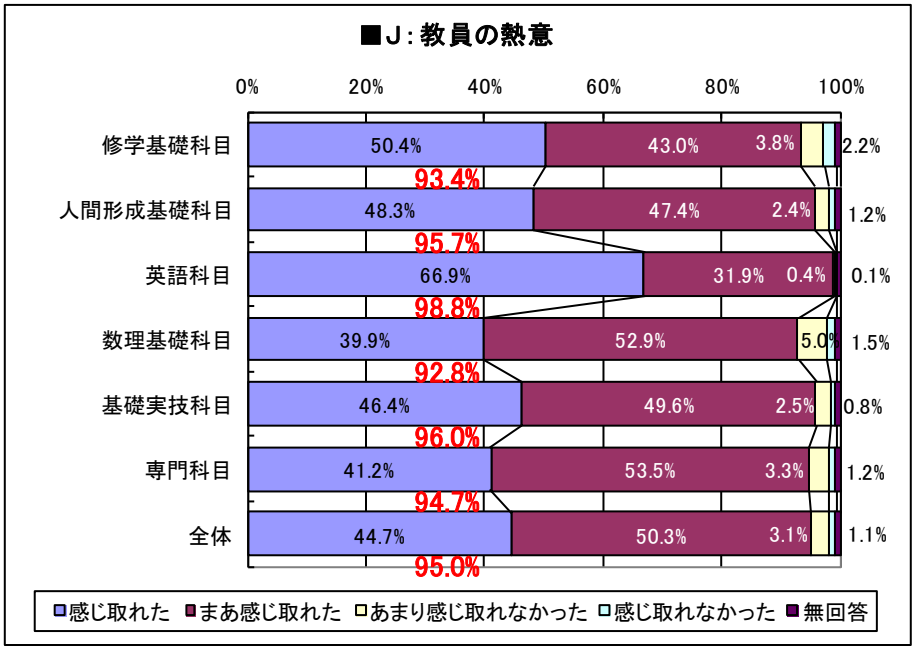






- 「J:教員の熱意」は全ての科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めていた。最も高かったのは「英語科目」の98.8%であり、「感じ取れた」だけを見ても66.9%と非常に多く、教員の熱意がよく伝わっている様子がうかがえた。次いで、「基礎実技科目」が96.0%、「人間形成基礎科目」が95.7%であり、ここまでの科目は肯定的な意見が95.0%を超えていた。そして、最も低かった「数理基礎科目」でも肯定的な意見が92.8%であり、評価としては高いと言えるものであった。
- 「K:この科目の満足度」も全ての科目区分で肯定的な意見が9割を超えていた。最も満足度が高かったのは「英語科目」の98.5%であり、「満足している」だけを見ても55.4%と半数を超えていた。次いで、「基礎実技科目」が97.3%、「人間形成基礎科目」が95.5%と続いていた。一方、満足度が最も低かったのは「数理基礎科目」の92.5%で、続いて「修学基礎科目」が94.4%、「専門科目」が94.6%であったが、いずれも9割を超える非常に高い満足度であり、全体的に満足度は高いと言える。

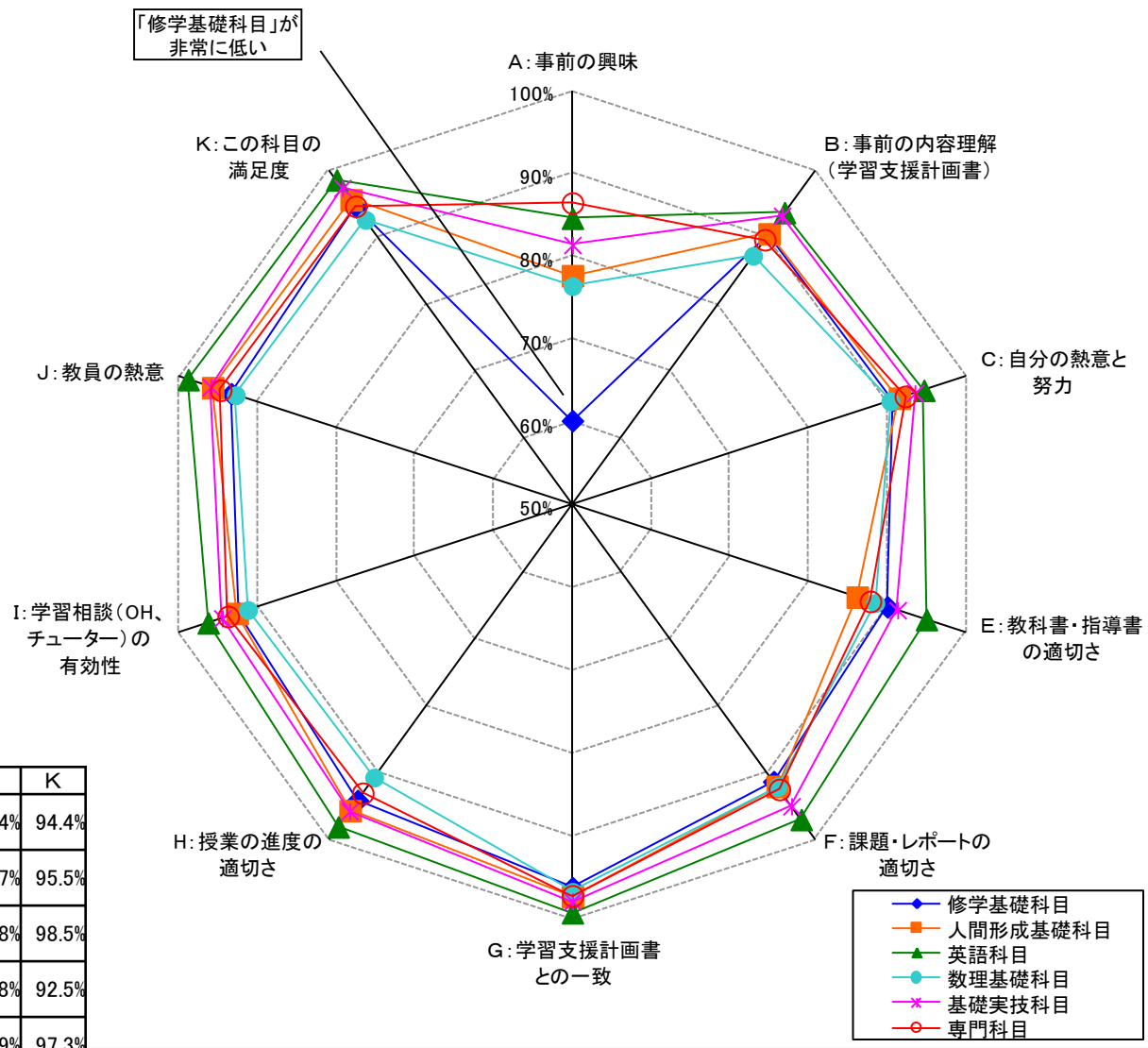




＜5-2＞肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートで比較した。
- 全体で目についたのは「A:事前の興味」の科目区分による差の大きさであり、特に「修学基礎科目」が非常に低い点が目立っていた。
- 科目区分別では、「A:事前の興味」を除く全ての項目で「英語科目」の肯定的な意見が最も多くなっており、「基礎実技科目」が続いていた。
- 一方、全体的に低めだったのは、「数理基礎科目」であったが、差はわずかで、特に目立つ低さではなかった。そして、「E:教科書・指導書の適切さ」では「人間形成基礎科目」が低く、「F:課題・レポートの適切さ」と「G:学習支援計画書との一致」では「修学基礎科目」が低かった。

■科目区分別比較レーダーチャート



■科目の評価比較

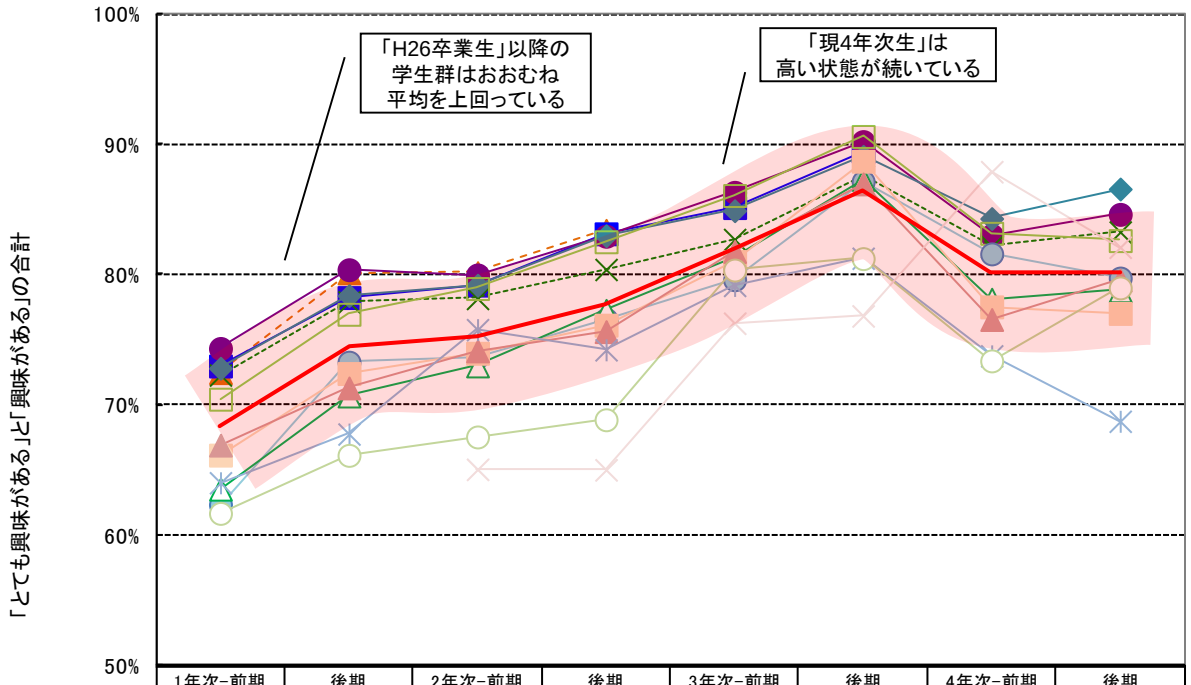
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	60.1%	90.4%	90.8%	90.0%	91.4%	96.3%	94.2%	92.4%	93.4%	94.4%
人間形成基礎科目	77.7%	90.4%	91.6%	86.2%	92.1%	97.4%	95.7%	92.6%	95.7%	95.5%
英語科目	84.6%	93.6%	94.7%	95.0%	97.0%	99.3%	98.2%	96.3%	98.8%	98.5%
数理基礎科目	76.4%	87.2%	90.4%	88.5%	92.2%	96.8%	90.8%	91.2%	92.8%	92.5%
基礎実技科目	81.4%	93.1%	93.5%	91.3%	95.1%	97.9%	95.8%	94.5%	95.9%	97.3%
専門科目	86.4%	89.6%	92.3%	87.9%	92.6%	97.3%	93.1%	93.8%	94.7%	94.5%

＜6＞同一学生群の分析

＜6-1＞同一学生群の変化に関する分析

- 同一学生群は学年が上がるにつれて、どのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制に移行しているため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外した。
- 「全体平均」を見ると、「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて肯定的な意見が増加し、授業に対する興味が増していた。その期間に「全体平均」は68.3%から86.4%へと18.1ポイント増加している。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、「4年次-後期」まで横這いとなって卒業に至っていた。
- 学生群としては「H26卒業生」の前後で傾向が変わっている様子が見られた。「H25卒業生」までは、「1年次-前期」の肯定的な意見が6割台であったが、「H26卒業生」以降は7割台となっており、両者共に学年が上がるにつれて同じような変化をしているものの、同じような差を持ちながら変化しているようであった。
- 特に高さが目立っていたのは「現4年次生」であり、「1年次-前期」から「2年次-前期」が高く、「3年次-後期」まで授業に強い興味を持ち続けているようであった。そして、「現3年次生」「現2年次生」も高い状態を維持しており、ここ数年の学生群に似た傾向が見られた。

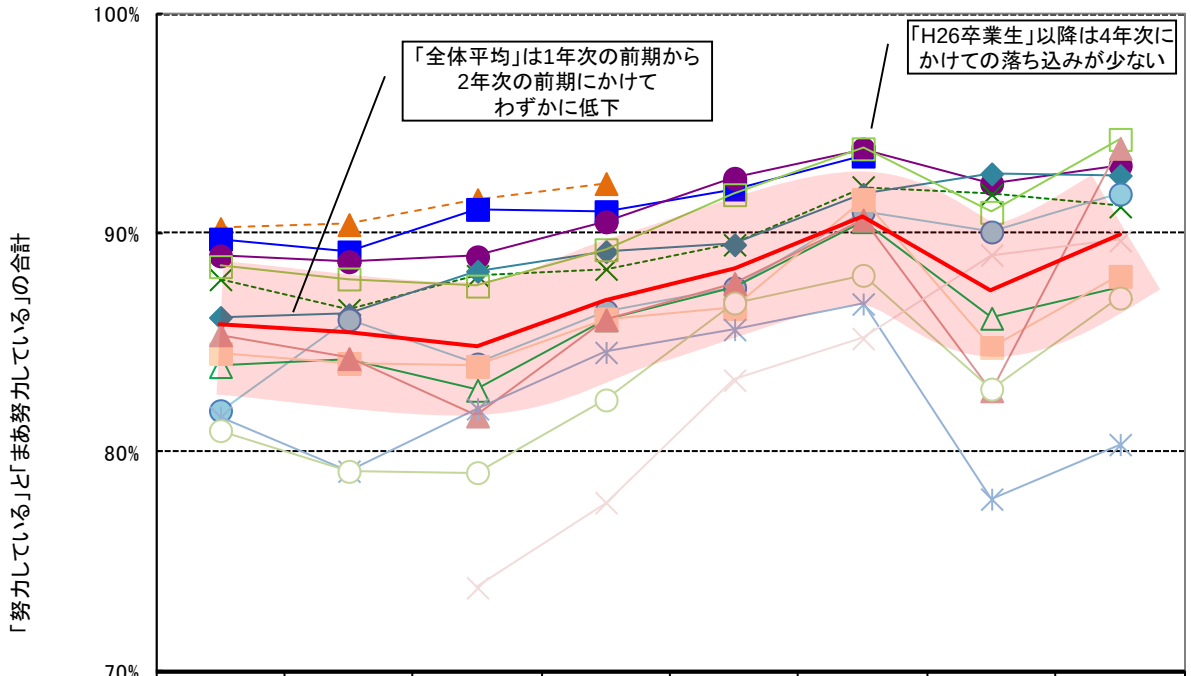
■学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%				
現3年次生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%		
現4年次生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
全体平均	68.3%	74.5%	75.3%	77.6%	82.1%	86.4%	80.1%	80.2%

- 「C：自分の熱意と努力」の「全体平均」を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに低下し、その後は増加傾向となり、「3年次-後期」で熱意と努力が最も高くなっている。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、「4年次-後期」に再び上昇して卒業に至っていた。全体としての変化は多かったが、変化の幅は小さく、肯定的な意見はほぼ85.0%以上であり、大きな落ち込みは見られなかった。
- 学生群別の特徴を見ると、前項で見た「A：事前の興味」と同様に、「H26卒業生」以降の学生群の高さが目立っていた。特に「3年次-後期」以降の落ち込みが少なく、4年間を通して熱意と努力が継続していると言える。
- 特に「現2年次生」「現3年次生」は「1年次-前期」から肯定的な意見の多さが目立っており、今後の変化に注目したい学生群であると言える。

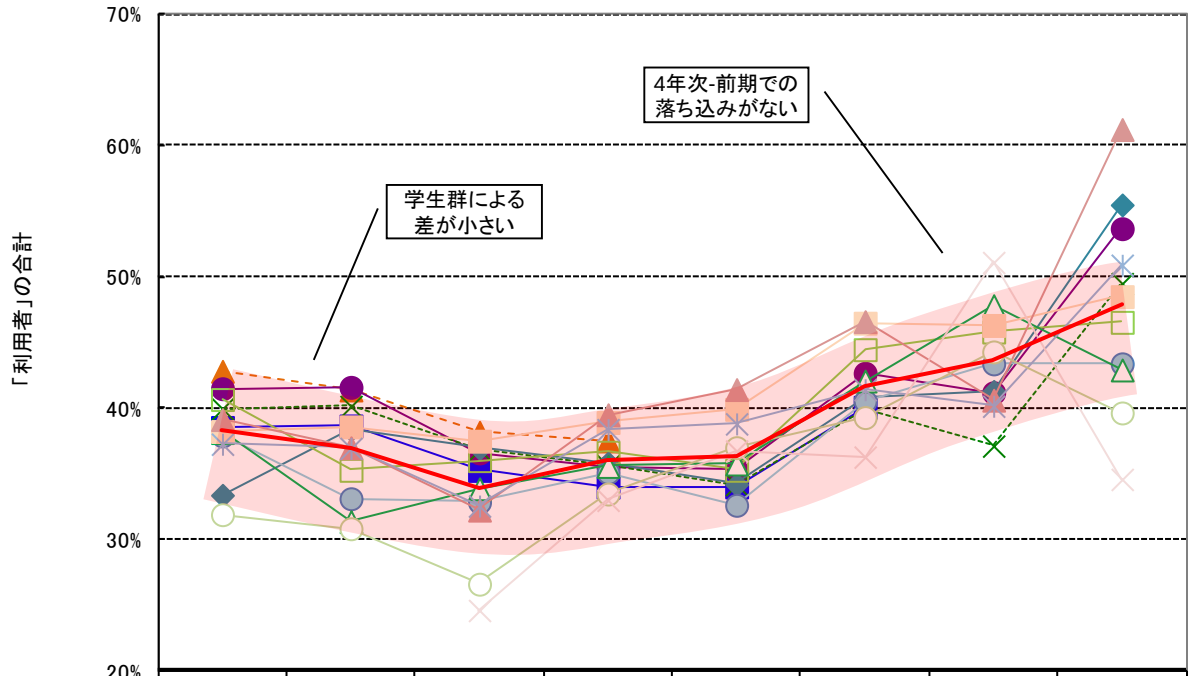
■学年毎・学期毎の「C：自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	90.2%	90.4%	91.5%	92.3%				
現3年次生	89.7%	89.1%	91.1%	91.0%	92.0%	93.5%		
現4年次生	89.0%	88.7%	88.9%	90.5%	92.5%	93.8%	92.3%	93.1%
H28卒業生	87.9%	86.5%	88.1%	88.4%	89.5%	92.1%	91.8%	91.2%
H27卒業生	86.2%	86.3%	88.3%	89.2%	89.5%	91.8%	92.7%	92.6%
H26卒業生	88.5%	87.9%	87.6%	89.3%	91.8%	93.9%	91.0%	94.3%
H25卒業生	81.9%	86.1%	84.0%	86.5%	87.5%	91.0%	90.1%	91.8%
H24卒業生	83.9%	84.2%	82.8%	86.1%	87.5%	90.5%	86.1%	87.5%
H23卒業生	84.5%	84.1%	83.9%	86.1%	86.6%	91.5%	84.8%	88.0%
H22卒業生	85.4%	84.3%	81.7%	86.0%	87.7%	90.6%	82.8%	93.9%
H21卒業生	81.6%	79.1%	82.0%	84.6%	85.6%	86.8%	77.9%	80.4%
H20卒業生	81.0%	79.1%	79.1%	82.4%	86.8%	88.1%	82.9%	87.0%
H19卒業生			73.8%	77.7%	83.3%	85.2%	89.0%	89.7%
全体平均	85.8%	85.5%	84.8%	86.9%	88.4%	90.7%	87.4%	90.0%

- 「I:学習相談の有効性」では、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 「全体平均」を見ると、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけて利用者の割合が少し減少し、その後は「4年次-後期」にかけてゆるやかに増加する傾向が見られた。最も利用者が少なかったのは「2年次-前期」の33.9%、最も多かったのは「4年次-後期」の47.9%であり、差は14.0ポイントで、学年による利用率の差は少なかった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標よりも学生群によるバラツキが少なく、「H26卒業生」の前後での差は見られなかった。

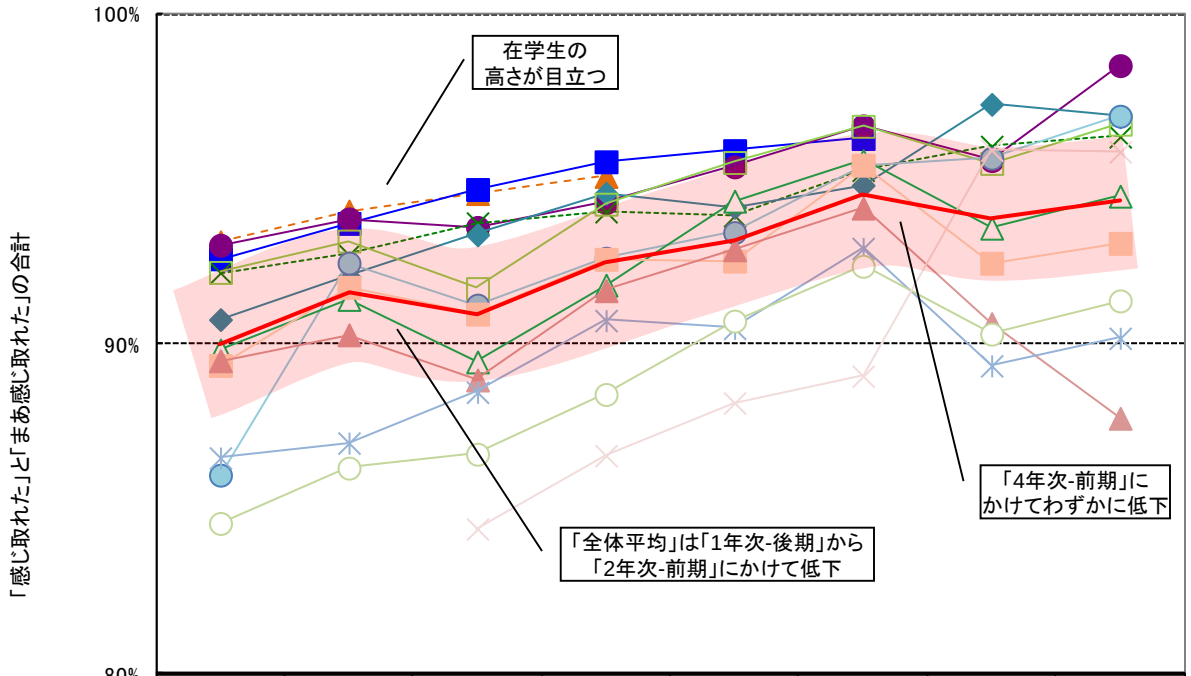
■学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	42.8%	41.4%	38.2%	37.5%				
現3年次生	38.5%	38.7%	35.3%	34.0%	34.0%	40.1%		
現4年次生	41.5%	41.6%	36.6%	35.5%	35.3%	42.7%	41.2%	53.7%
H28卒業生	40.0%	40.1%	36.9%	35.6%	34.2%	39.9%	37.1%	49.5%
H27卒業生	33.4%	38.4%	37.0%	35.8%	34.2%	40.8%	41.3%	55.5%
H26卒業生	40.7%	35.3%	36.0%	36.7%	35.3%	44.5%	45.8%	46.5%
H25卒業生	37.9%	33.1%	32.9%	35.1%	32.6%	40.5%	43.4%	43.4%
H24卒業生	38.2%	31.4%	33.9%	35.6%	35.8%	42.1%	47.8%	42.9%
H23卒業生	38.2%	38.6%	37.5%	38.9%	39.9%	46.5%	46.3%	48.5%
H22卒業生	39.1%	37.0%	32.3%	39.5%	41.4%	46.6%	40.6%	61.2%
H21卒業生	37.3%	37.0%	32.6%	38.4%	38.8%	41.4%	40.2%	50.9%
H20卒業生	31.9%	30.8%	26.6%	33.5%	37.0%	39.3%	44.3%	39.7%
H19卒業生			24.6%	33.0%	36.8%	36.3%	51.1%	34.6%
全体平均	38.3%	36.9%	33.9%	36.1%	36.3%	41.7%	43.6%	47.9%

- 「J:教員の熱意」の「全体平均」を見ると、「2年次-前期」と「4年次-前期」にわずかに低下する傾向が見られ、他の指標と似た傾向となっていた。ただし、低下の幅は非常に小さく、4年間を通して9割以上の学生が教員の熱意を感じていると答えていた。
- 学生群の特徴を見ると、他の主な指標と同様に「H26卒業生」以降で肯定的な意見が多く、特に「現2年次生」「現3年次生」「現4年次生」の高さが目立っていた。これらの学生群は「2年次-前期」での落ち込みがないか、非常に少なかった。
- 「現4年次生」に関しては、「4年次-前期」で少し低下があったものの、「4年次-後期」には98.4%が肯定的な意見であり、過去最高の評価で卒業に至っていた。

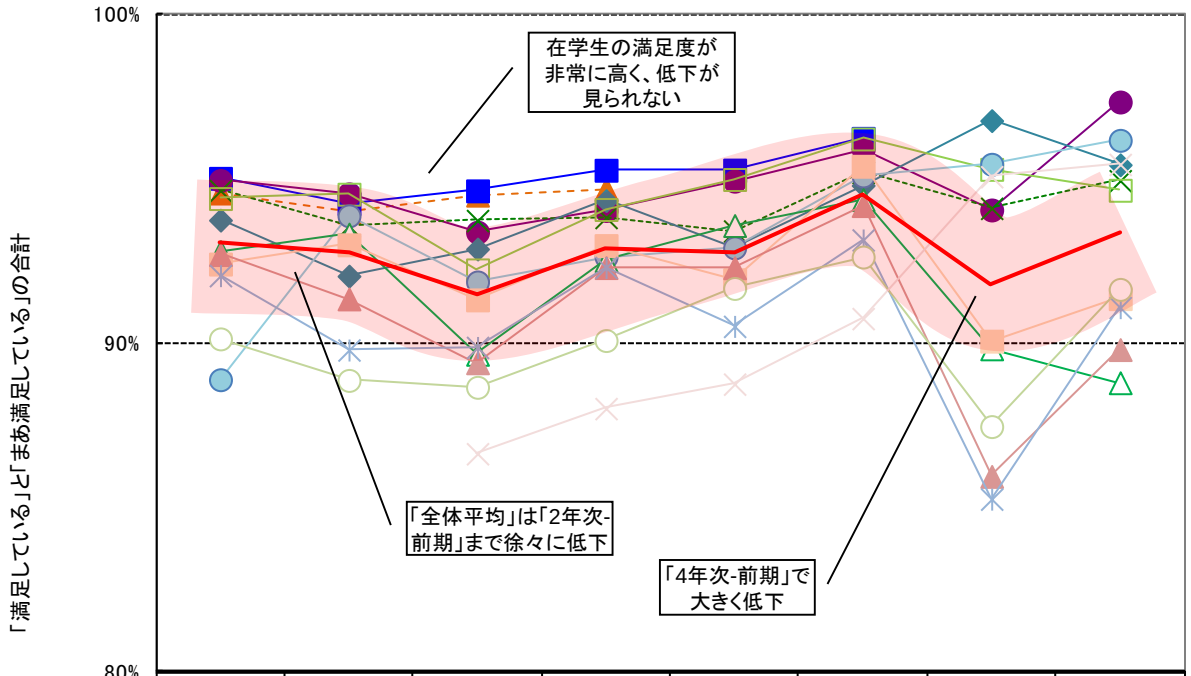
■学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	93.1%	94.0%	94.6%	95.1%				
現3年次生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%	95.9%	96.2%		
現4年次生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%	95.6%	98.4%
H28卒業生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
全体平均	90.0%	91.5%	90.9%	92.5%	93.1%	94.5%	93.8%	94.3%

- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」も、他の主要な指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」で低下しているが、常に9割以上が満足という回答であり、最低であった「2年次-前期」の91.7%と、最高であった「3年次-後期」の94.5%との差は2.8ポイントであり、変動幅も非常に小さかった。
- 学生群では、他の主要な指標と同様に「H26卒業生」以降の満足度が高い傾向が見られた。また、「H25卒業生」は「3年次-前期」以降は比較的高い満足度であった。
- 「現2年次生」「現3年次生」は特に満足度が高く、この2つの学生群は「2年次-前期」にかけての低下が見られなかった。また、「現4年次生」の満足度も高く、「4年次-後期」には過去最高の97.3%が満足と答えており、高い満足度のまま卒業に至っていた。
- 「H25卒業生」以前の学生群では、「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけての満足度の低下が非常に大きかったが、最近ではその傾向がほとんど見られなくなってきており、学生の意識の変化が感じられる結果となっていた。

■学年毎・学期毎の「K:この科目の満足度」の変化 同一学生群の変化

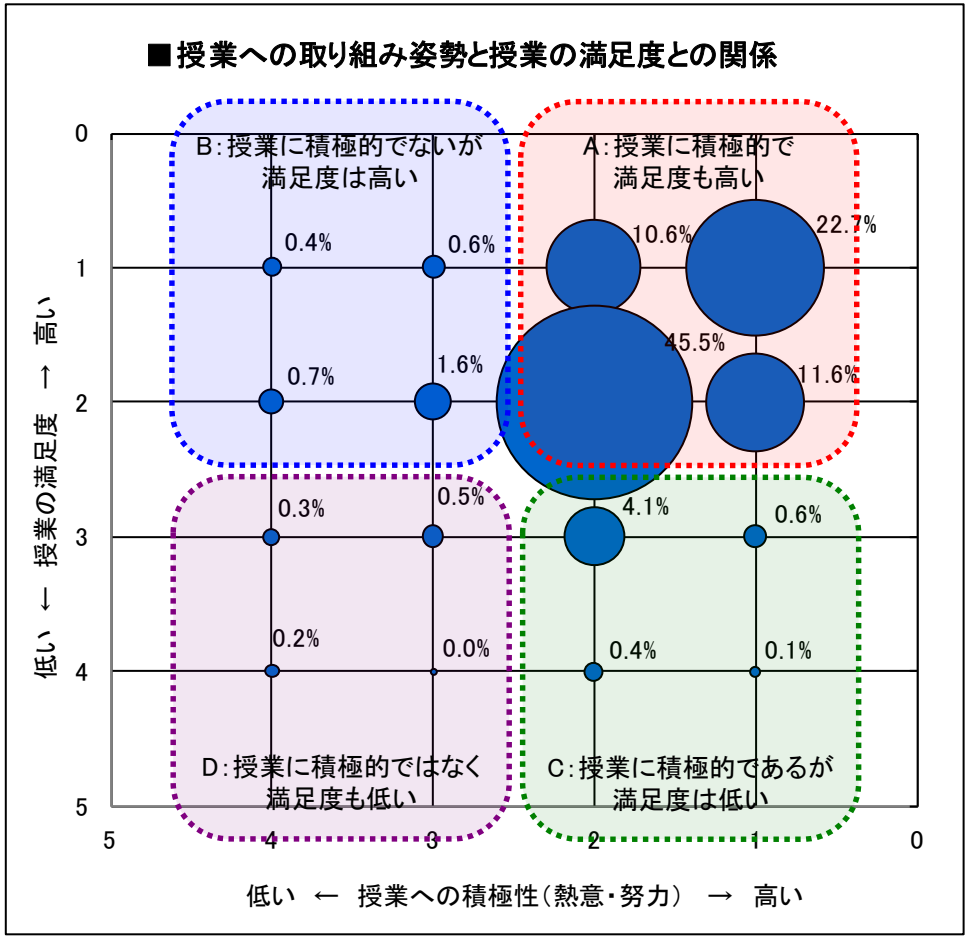


	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
現2年次生	94.6%	94.0%	94.5%	94.7%				
現3年次生	95.0%	94.2%	94.6%	95.3%	95.3%	96.2%		
現4年次生	94.9%	94.5%	93.4%	94.0%	94.9%	95.9%	94.0%	97.3%
H28卒業生	94.6%	93.6%	93.7%	93.8%	93.4%	95.2%	94.1%	94.9%
H27卒業生	93.7%	92.0%	92.9%	94.3%	92.9%	94.8%	96.8%	95.4%
H26卒業生	94.4%	94.5%	92.2%	94.1%	95.0%	96.2%	95.3%	94.6%
H25卒業生	88.9%	93.9%	91.9%	92.6%	92.9%	95.1%	95.4%	96.2%
H24卒業生	92.8%	93.3%	89.7%	92.5%	93.6%	94.4%	89.8%	88.8%
H23卒業生	92.4%	93.0%	91.3%	93.0%	91.9%	95.4%	90.1%	91.3%
H22卒業生	92.7%	91.3%	89.4%	92.3%	92.3%	94.2%	85.9%	89.8%
H21卒業生	92.0%	89.8%	89.9%	92.3%	90.5%	93.1%	85.2%	91.1%
H20卒業生	90.1%	88.9%	88.6%	90.1%	91.7%	92.6%	87.5%	91.6%
H19卒業生			86.6%	88.0%	88.7%	90.7%	95.1%	95.4%
全体平均	93.0%	92.7%	91.4%	92.8%	92.8%	94.5%	91.7%	93.3%

＜7＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

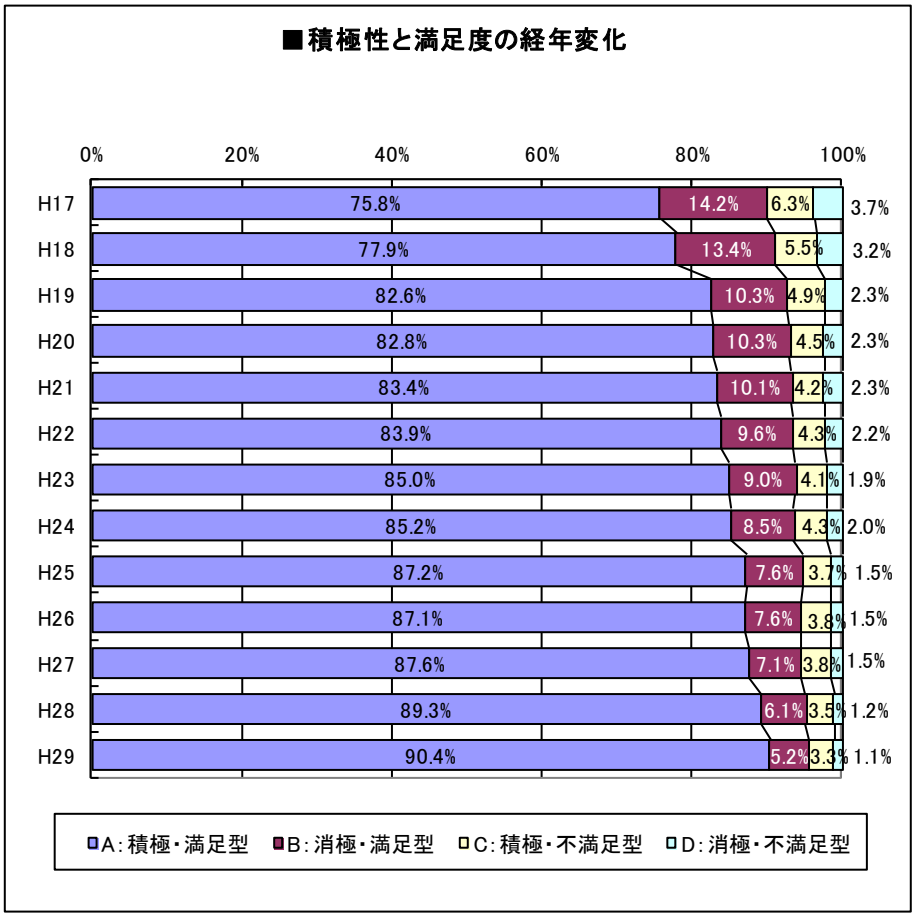
＜7-1＞授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

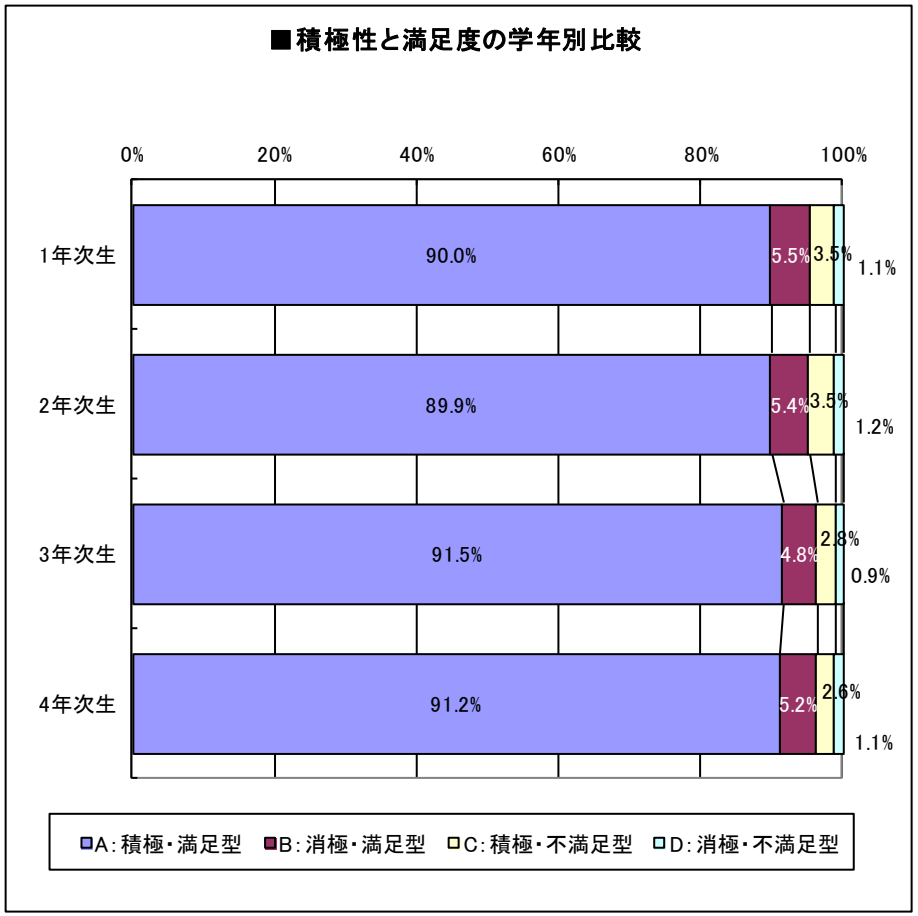
- 「C：自分の熱意と努力」（積極性）と「K：この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A：授業に積極的で満足度も高い」グループは90.4％であり、9割の学生は授業に積極的に取り組み、満足度も高いようであった。この中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は22.7％であった。
- 「B：授業に積極的でないが満足度は高い」グループは5.2％であった。これは授業に積極的ではないのに満足度は高いという学生群であり、教員の指導に引っ張られている学生などであると思われる。
- 「C：授業に積極的であるが満足度は低い」グループは3.3％であった。これは授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が低いという学生群であり、積極性が失われないようにしっかりとフォローしていく必要がある。
- 「D：授業に積極的ではなく満足度も低い」グループは1.1％であった。これは割合は少ないものの、大学としては最もフォローが必要な学生群であると言える。



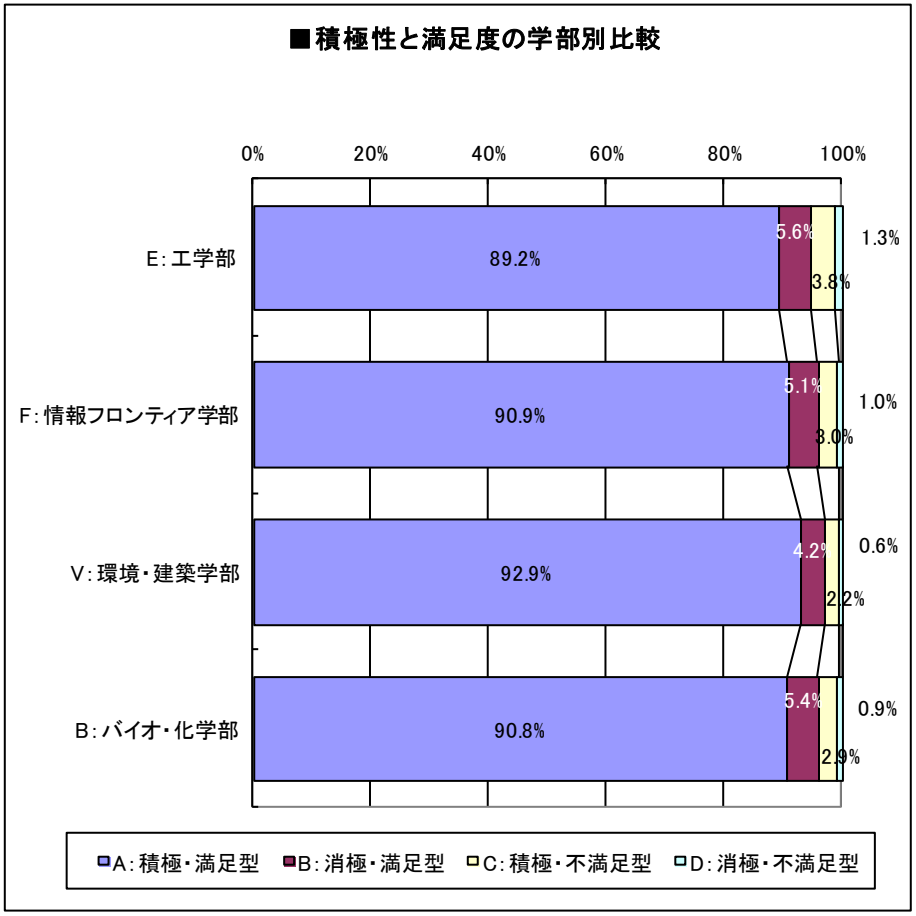
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	90.4%	・授業に積極的で満足度も高い。 ・良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	5.2%	・授業に積極的でないが満足度は高い。 ・教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 ・積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.3%	・授業に積極的であるが満足度は低い。 ・頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 ・「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.1%	・授業に積極的ではなく満足度も低い。 ・最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの割合の経年変化を見たところ、「A:積極・満足型」は前回を1.1ポイント上回った。わずかに例外はあるものの、基本的には調査開始から増加傾向が続いており、今回は過去最高となった。
- 「B:消極・満足型」は前回を0.9ポイント下回ったが、その他の2グループは前回とほとんど変わらなかった。
- 学年別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「1年次生」が90.0%、「2年次生」が89.9%、「3年次生」が91.5%、「4年次生」が91.2%であり、学年による大きな差は見られなかった。また、他の3グループも学年による差はほとんど見られなかった。





- 学部別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、「V:環境・建築学部」の92.9%が最も多く、次いで、「F:情報フロンティア学部」が90.9%、「B:バイオ・化学部」が90.8%、「E:工学部」が89.2%であり、最も多い「V:環境・建築学部」と最も少ない「E:工学部」の差は3.7ポイントと、大きくはなかった。
- 上記以外の3グループも、学部による差はわずかであり、学年別と同様に学部による差もほとんど見られなかった。



- 学科別比較は、「A:積極・満足型」の割合でソートしているが、最も多かったのは「VE:環境土木工学科」の93.8%であり、次いで、「FS:経営情報学科」が92.8%、「VA:建築学科」が92.7%、「VS:建築デザイン学科」が92.6%で続いており、「V:環境・建築学部」の3学科が上位に入っていた。
- 一方、「A:積極・満足型」の割合が最も少なかったのは、「ET:電子情報通信工学科」の86.4%であり、最も多い「VE:環境土木工学科」との差は7.4ポイントであった。続いて、「EP:情報工学科」が87.7%、「EE:電気電子工学科」が88.7%、「ER:ロボティクス学科」が88.9%となっており、下位には「E:工学部」が多く見られた。

＜8＞全体のまとめ

＜8-1＞全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

82.7%の学生が事前に授業に興味を持ち、92.3%の学生が熱意を持って授業を受けていた。そして、95.1%が授業を通して教員の熱意を感じ、95.1%が最終的に満足と答えていた。

- ◆ 授業に対して、「事前の興味」では82.7%、「事前の内容理解」では90.3%、「自分の熱意と努力」では92.3%が肯定的な意見であり、授業の前段階の指標はいずれも高く、期待している様子がうかがえた。
- ◆ 授業の内容では、「教科書・指導書の適切さ」では88.4%、「課題・レポートの適切さ」では93.0%が肯定的な意見であった。また、「学習支援計画書との一致」では97.4%、「授業の進度の適切さ」では94.0%、「学習相談の有効性」では93.7%が肯定的な意見であり、評価は高かった。
- ◆ 最終的な「満足度」では、95.1%が満足と答えており、「教員の熱意」も95.1%が肯定的な意見で、最終的な評価は非常に高かった。

【学年別比較で確認できた事】

「熱意と努力」「満足度」などの主要な指標では学年による差が見られなかったが、「事前の興味」や「予習・復習、課外学習活動の時間」などを見ると、「3年次生」がやや積極的なようであった。

- ◆ 「事前の興味」「予習・復習、課外学習活動の時間」「学習相談の有効性」は学年による差が見られたが、「熱意と努力」「満足度」など、他の項目では学年による差は非常に小さく、意識の差はあまり見られなかった。
- ◆ 「事前の興味」は「1年次生」から「3年次生」にかけて増加し、「4年次生」でわずかに低下していた。同様に「予習・復習、課外学習活動の時間」も「1年次生」から「3年次生」にかけて時間が長くなる傾向があり、「4年次生」でわずかに短くなっていた。
- ◆ 「学習相談の有効性」では、「1年次生」と「4年次生」が学習相談を利用している割合が多く、「3年次生」が最も少なかった。

【経年変化で確認できた事】

ほとんどの指標が前回を上回って過去最高となり、「満足度」「教員の熱意」も非常に高い評価となっていた。そして、学習時間も長くなる傾向が続いていた。

- ◆ 「教科書・指導書の適切さ」の評価は前回と同じであったが、他の9項目は全て前回を上回って過去最高となった。
- ◆ 前回からの評価の向上が目立っていたのは「事前の興味」と「事前の内容理解」であり、授業開始前の姿勢が積極的になっているようであった。
- ◆ 最終的な評価である「満足度」も前回を上回り、「教員の熱意」も過去最高となった。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」を見ると、学習時間は長くなる傾向が続いており、「学習は特にしなかった」という層は減少傾向が続いていた。

【学部別・学科別比較で確認できた事】

学部の差は大きくないが、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」は「環境・建築学部」が高く、「情報フロンティア学部」が低かった。また、この2学部の中では学科による差が小さかった。

- ◆ 学部の差は大きくないが、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」は「環境・建築学部」が高く、「情報フロンティア学部」が低かった。そして、他の項目では差は小さいものの、「環境・建築学部」が最も高かった。
- ◆ 「工学部」では、「ロボティクス学科」と「電子情報通信工学科」が全体的にやや低めであり、全体的に目立って高い学科は見られなかった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」では「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」ではやや差が見られたものの、他の項目では学科による差がほとんど見られなかった。また、「環境・建築学部」では、全項目で差がなかった。
- ◆ 「バイオ・化学部」では、いくつかの項目で「応用化学科」が高かった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「修学基礎科目」への興味の低さは目立っていたが、他の項目では科目区分による差があまり見られなかった。わずかな差ではあるが、「英語科目」が全体的に高く、「数理基礎科目」が低めであった。

- ◆「事前の興味」は科目区分によって非常に大きな差があり、特に「修学基礎科目」に対する興味が非常に低い点が目立っていた。
- ◆ 上記以外は科目区分によってあまり大きな差は見られなかったが、「英語科目」で肯定的な意見がやや多かった。
- ◆ 一方、全体的に低めであったのは「数理基礎科目」であったが、差はわずかで、目立つ低さではなかった。

【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」以降の学生群は充実度が高く、特に在学生の充実度が高かった。また、最近の学生群では「4年次-前期」で「熱意と努力」や「満足度」が低下しない学生群が見られるようになってきている。

- ◆ 同一学生群毎の変化を見ると、「事前の興味」「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」では、「H26卒業生」が境目となっており、それ以降の学生群で肯定的な意見が高く、充実している様子がうかがえた。特に現在の在学生の充実度が高かった。
- ◆「自分の熱意と努力」や「満足度」を見ると、入学から「2年次-前期」にかけてわずかに低下し、その後は「3年次-後期」まで充実感が増し、「4年次-前期」でわずかに低下し、「4年次-後期」に再び上昇して卒業に至る傾向が見られた。ただし、最近の学生群では「4年次-前期」での低下が少なかったり、低下しないまま卒業に至る学生群も見られるようになってきている。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は90.4%であり、調査開始からの増加傾向が続いて過去最高となった。「積極・満足型」の割合は、学年別には差は見られず、学部別では「環境・建築学部」で多く、「工学部」で少なかった。

- ◆「積極・満足型」が90.4%となり、調査開始からの増加傾向が続いて過去最高となった。そして、「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は22.7%であった。
- ◆「積極・満足型」は「1年次生」で90.0%、「2年次生」で89.9%、「3年次生」で91.5%、「4年次生」で91.2%であり、差はほとんど見られなかった。
- ◆ 学部別に「積極・満足型」を比較すると、「環境・建築学部」が92.9%と最も多く、最も少ないのは「工学部」の89.2%であった。そして、学科別には「環境土木工学科」「経営情報学科」「建築学科」「建築デザイン学科」の順であり、上位には「環境・建築学部」が多く見られた。

＜8-2＞全体のサマリー

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 82.7%の学生が事前に授業に興味を持ち、92.3%の学生が熱意を持って授業を受けていた。そして、95.1%が授業を通して教員の熱意を感じ、95.1%が最終的に満足と答えていた。
- ほとんどの指標が前回を上回って過去最高となり、「満足度」「教員の熱意」も非常に高い評価となっていた。そして、学習時間も長くなる傾向が続いていた。
- 「熱意と努力」「満足度」などの主要な指標では学年による差が見られなかったが、「事前の興味」や「予習・復習、課外学習活動の時間」などを見ると、「3年次生」がやや積極的なようであった。
- 学部の差は大きくないが、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」は「環境・建築学部」が高く、「情報フロンティア学部」が低かった。また、この2学部の中では学科による差が小さかった。
- 「修学基礎科目」への興味の低さは目立っていたが、他の項目では科目区分による差があまり見られなかった。わずかな差ではあるが、「英語科目」が全体的に高く、「数理基礎科目」が低めであった。
- 「H26卒業生」以降の学生群は充実度が高く、特に在学生の充実度が高かった。また、最近の学生群では「4年次-前期」で「熱意と努力」や「満足度」が低下しない学生群が見られるようになってきている。
- 「積極・満足型」は90.4%であり、調査開始からの増加傾向が続いて過去最高となった。「積極・満足型」の割合は、学年別には差は見られず、学部別では「環境・建築学部」で多く、「工学部」で少なかった。

- **95.1%の学生が授業に満足していると答えていた。これは非常に高い満足度であると言える。また、学生の「授業への興味」「授業への熱意」も高く、「教員の熱意」を感じるという意見も95.1%であった。**
- **全体的に調査開始から良い方向に変化しており、ほとんどの指標が過去最高の評価となった。これらの変化を見ると、継続的に改善が進んでおり、大きな課題は見られないものと思われる。**
- **同一学生群の変化を見ても、「H26卒業生」以降の学生群の充実度の高さが目立っている。特に在学生では「中だるみ」が少なくなっており、在学中に充実度や満足度が低下しない学生が見られるようになってきている。**
- **全体的には充実しているものの、「工学部」で「積極・満足型」が少ないなど、学部や学科によっては細かい課題は見られ、継続的に見ていく必要があると言える。**